

財団法人 東洋文庫年報

平成元年度

財団法人 東洋文庫

目 次

I	平成元年度の東洋文庫	1
II	図書事業	5
	1. 図書資料の収集	5
	2. 図書資料の保存整理	6
	3. 図書資料の利用	7
	4. 研究資料複写サービス	8
III	研究事業	9
	1. 調査研究	9
	i 文部省科学研究費による調査研究	9
	ii 一般調査研究	10
	iii 特別調査研究	13
	iv その他の研究助成金による特別事業	14
	v 研究委員会	16
	2. 学術図書出版	17
	3. 講演会	18
	4. 研究会（東洋文庫談話会）	20
	5. 研究者養成	20
	6. 学術情報提供	21
	i 研究者の交流及び便宜供与サービス	21
	ii 研究会等への会場提供サービス	25
	iii 研究資料の複製・増刷・刊行サービス	25
	7. 職員の研究業績	26

IV 業務報告	41
1. 総務報告	41
2. 人事報告	43
V 役員名簿	45
1. 役員	45
2. 東洋学連絡委員会委員	47
3. 名誉研究員	47
4. 職員	48
5. 臨時職員	50
VI 財団法人東洋文庫附置	
ユネスコ東アジア文化研究センターの事業	67
1. 情報活動	67
2. 研究成果の英文出版	70
3. 調査研究及び普及活動	71
4. 業務報告	72
5. 役員名簿	75

付 表

「財団法人東洋文庫研究員・研究課題一覧」	39・40
「財団法人東洋文庫役員略年表」	51～59
「文部省科学研究費補助金年度別受入一覧表」	60～65
「財団法人東洋文庫組織図」	66

I 平成元年度の東洋文庫

平成元年は財団法人東洋文庫にとって極めて不幸な年であった。それは、永年東洋文庫の大黒柱であった榎理事長が11月5日夕、突然、心臓の発作で逝去したからである。

榎一雄前理事長は、昭和12年、東京帝国大学卒業後、始め無給の研究生であった頃から、現職の理事長として活動中急逝するまで、50余年の長い間、我が東洋文庫のために文字通り献身して来た。誠に榎氏にとって東洋文庫は彼の生命であった。財団法人東洋文庫が、幾度か襲われた財政的危機の一つに、国有化もやむをえないという意見が真剣に考えられたことがあったが、榎氏が「我 何のかんばせあつて、泉下に白鳥先生・和田先生にまみえんや」とその心中を吐露したことを今もって忘れることができない。この使命観こそが東洋文庫を今日あらしめた原動力であった。

戦前は、創立者岩崎久弥氏の後援で、財源は潤沢であり、国内外の書籍を思うがままに買い集めることができた。そのため、モリソン文庫を中核として、東洋文庫は東洋学に関する漢籍・洋書の一大宝庫となり、これを利用して研究を進める研究部を設置して、ここに世界に誇る東洋学の研究センターとなった。

しかし、この隆盛も、昭和20年の敗戦によって一朝の夢と化し、財源の大部分を占めた南満州鉄道株式会社の株も単なる紙切れに変わり、ここに東洋文庫は危く壊滅に瀕した。幸い国家の絶大なる理解により、財団法人東洋文庫の図書館としての機能を支えるべく、当時創設せられたばかりの国立国会図書館の初代の館長金森徳次郎氏と当時の財団法人東洋文庫の理事長幣原喜重郎氏との間で異例の契約が結ばれ、財団の図書部門を国立国会図書館支部東洋文庫とし、その職員の数人を国家公務員として遇することになった。そして国会図書館が蔵書の保管に当るこの状態は今日まで及んでいる。

その一部は国立の機関そのものとなったものの、財団は財団として存立して行かなければならなかった。財団に対する財政的援助はどこからも得られなかった。従って図書の購入などは望むべくもなかった。しかも暫くの間、外国との交流も不自由であったので、外国でどのような学問的活動が行われているかは、簡単には知ることができなかった。この時、東洋文庫の在庫の出版物、後には日本国内の出版物との交換という手段によって外国の出版物を手に入れる外はなかった。かくて、榎氏は戦前から交換の慣行のあった諸外国の研究機関に片っ端から書簡を出して交換の再開を請うた。その時の、榎氏の部屋からタイプライターを叩く音が毎日夕方おそくまで鳴り響いたことは、当時文庫に出入りしていた人々の記憶に強く残っている。その後、比較的に自由に外国の出版物を購入できるようになったが、欧米の研究文

献がかなりよく揃えられたのは全く榎氏の努力に依るものである。

やがて、山本達郎氏やその他の方々の努力により文部省より補助金を受けるようになってからは、図書の収集や研究活動はかなり楽になったが、財団法人の維持は依然苦しい状況が続けた。というのは、文部省の補助金は事業費に対する補助金であって、財団の運営は自己財源によって支弁し、これには補助金は付かないからである。また、東洋文庫のような財団法人は公益法人であるから、営利事業は一切許されない、ひたすら基金の果実に頼って運営を図らなければならない。しかし、銀行の預金や公社債の金利は微々たるものであって、しかも常に変動を免れない。従って、ともすれば財団の財政に赤字が出かねなかった。幸い、創立者岩崎久弥氏との関係で、三菱グループの金曜会の方々が好意的に、かなり長い間、毎年の不足金を補填されたので、わずかにその年々を暮らすことができた。ある年などは、年度末に遣り繰りがつかず、いくばくかの赤字が出そうになったのを、榎氏が自腹を切って切り抜けたことすらあった。この間にあって、榎氏はあらゆる手蔓を求めて募金に東奔西走したが、なかなかこれに応じてくれる人はなかった。昭和51年、東洋文庫の国際交流に尽くした功績により国際交流基金から賞金500万円を受賞した時の榎氏の喜びは今だに思い出される。

財団は基金の果実にのみ頼っては維持できなかった。そして金曜会もその当時の経済状況では従来通りの援助はできなくなり、東洋文庫はここに戦後最大の財政危機に立たされた。この時、上に触れた国有化の話も出たが、榎氏はこれを民間研究機関としての自由を守ろうとして拒絶した。この窮状から脱出するためには、敷地の一部を売るか、蔵書の一部を譲るか、いずれしかなかった。結局、榎氏の決断によって敷地の半分近くを売ることになった。その結果、基金は大分殖えたが、その果実だけでは財団の維持の見通しは依然心細く、ついに、蔵書の一部を手放さざるを得なくなった。榎氏は理事の故坂本太郎博士の仲介によって、東洋学とは比較的縁の薄い日本関係の蔵書を他の機関に譲ることにした。すなわち、東洋文庫所蔵の広橋家文書を国立歴史民俗博物館に、そしてその一部の国宝級のを文化庁に移譲した。この決意は榎氏が一人で散々懊悩した結果の断行であった。土地と蔵書の一部の放棄というこの二つの決意は、榎氏が終生最も苦しめ、悔んだ事であって、亡くなるまで折に触れその苦衷を漏らしたものである。その後、平成元年、金曜会の好意的な斡旋で、社名商標委員会から2億円の寄付があり、これは正に旱天の慈雨であった。これらによって基金がかなり増大し、ようやくここ当分、財政の行詰りから脱け出ることができるようになった。

東洋文庫は、研究所を兼ねた図書館として従来研究者に対して公開されてきたが、民間の機関であるがゆえに、国立の機関がともすれば閉鎖的になりがちな傾向に対してかなり開放的である。全国の諸大学に教鞭を取っている多くの研究者が、兼任

研究員として自由に研究室を訪れ、東洋文庫の図書を利用して、あるいは個人の研究に耽り、あるいは共同研究を活発に進めて、それぞれ成果を挙げている。特に若い研究者のために政府補助金の一部をもって、毎年研究生数名を選び、文庫の資料によって研究の基礎を作らせることに役立ててきたが、若い頃この東洋文庫で勉強し、その実績を積んで今日学界で活躍している人は多数に及んでいる。この研究図書館の機能もまた榎氏が年来意図した所である。なお、日本学術振興会の事業であった流動研究員の制度や今日同会が続けている特別研究員の制度の受け入れ機関として、毎年何人かの研究者の育成に尽力している。以上の外、東洋文庫の閲覧室を通じてその蔵書を一般に公開していることは言うまでもないが、これも榎氏の強く望んだ所である。

しかし、何といっても図書資料の充実が最も基礎的な事業である。榎氏はこの点については異常な熱情を示した。そのため榎氏任職中にいくつかの貴重な収集が文庫に納められた。それらについてはそれぞれの年の年報に記されている。平成元年度としては、山本達郎理事の仲介で生化学工業会社社長水谷當稱氏の寄付された5千万円により、当文庫の基になったモリソン文庫の旧所有主G・アーネスト・モリソン氏の令息アラステヤ・モリソン氏の集められた東南アジア関係の蔵書を購入できたことが挙げられる。榎氏は死ぬ数日前までモリソン二世氏宛の書簡をしたためていた。榎氏の逝去は、このモリソン文庫の到着の直後であった。

ユネスコ東アジア文化研究センターが昭和36年、東洋文庫に附置されたのは、東洋文庫の東洋学研究センターの実績が買われたのであって、これも榎氏あっての東洋文庫なればこそである。このセンターはユネスコ本部の期待以上に活動し、今日ではユネスコの満幅の信頼の下に、特に情報機関として活動している。この情報機関としての機能は榎氏の構想の一つであって、榎氏は事ある毎に財団とセンターの一体化を強調してやまなかった。

以上のように、戦後の東洋文庫は殆ど榎氏一人によってえられてきたといっても過言ではない、その榎氏の急逝に文庫の運営を助けて来た我々は全く途方に暮れた。早速、護雅夫研究部長を理事長代理に選び、その前後策に当たった。まず、榎前理事長の偉大なる功績に鑑み、その死を東洋文庫葬をもって弔うことにし、平成元年11月26日、榎氏が長い間そこで研究し、執務した東洋文庫を式場として、その葬儀を盛大に行った。その式場で故人の遺影の前に何人かの方々から捧げられた弔辞は平成2年度刊行予定の『書報第22号』の中に掲載される予定である。なお、榎氏の死を悼む、心の籠った弔詞が、国の内外から多数寄せられた。

榎前理事長の逝去に伴って平成元年度に我々の当面した問題は、誰が次代の理事長の責務に当るか、それを決めることであった。理事長の人は財団にとって重要

な事であるので、平成元年12月に開催予定の理事会で決めることにし、理事会に諮る前に、非公式に理事全員の懇談会を開いて協議した結果、慎重を期するため、定例理事会に理事長選考委員会を設けることを提案することになった。そして平成元年12月19日に定例の理事会・評議員会が開催されたが、当日理事長代理の護雅夫理事が病気で欠席されたため、急遽筆者が代りに会議を司会することになった。その席上、年度の途中のことでもあるので、とりあえずこの年度中は筆者が理事長代行となることが決定され、筆者はやむなくこれを了承した。次いで筆者から理事懇談会の協議に基づき、理事長選考委員会を設けることを提案し、異議なく可決された。そこでその委員として理事側から山本達郎・林健太郎・市古宙三の各理事、そして評議員の代表として岡野澄評議員を選出し、それに理事長代行たる筆者が加わることになった。当日、理事会終了後、第1回の選考委員会を開き、年明けて平成2年1月30日に第2回を開催、その2回の協議で、理事でもあり、ユネスコ東アジア文化研究センターの所長でもある北村甫氏が最適任であることを満場一致で決め、2月20日に臨時に開かれた理事会・評議員会で選考委員会の結論を報告し、これまた満場一致で北村氏を次代の理事長に推すことを決議した。

なお、この臨時理事会・評議員会で、榎家遺族から故榎一雄氏旧蔵書約28,000冊を東洋文庫に寄贈し、この整理のための費用を含めた榎一雄記念事業費として1億円を寄付する申出のあることが報告され、これを受入れることが了承された。更に、同じ理事会・評議員会に昭和61年4月より三菱銀行から派遣されて来た財団の総務部長田中満利氏が、三菱銀行に関係する人事異動で2月一杯で勇退し、その後任に三菱銀行より東陽太郎氏が平成2年3月より着任することが報告され、承諾された。

東洋文庫は榎前理事長の死をもってその歴史の一時期を終えた。そして平成2年4月1日より新しい理事長北村甫氏の下で、東洋文庫は新しい時代を迎えることになった。そこで人心を一新するため、榎前理事長時代に榎氏を補佐して苦勞を重ねて来られた研究部長護雅夫氏と図書部長田中正俊氏の辞任を認め、新たに研究部長に従来研究部長補佐を務めて来られた東京大学教授佐藤次高氏を、図書部長に現国立国会図書館支部東洋文庫長の渡辺兼庸氏を推し、全く新しい体制で東洋文庫の発展を期することとした。(河野六郎)

II 図 書 事 業

1. 図 書 資 料 の 取 集

購入・交換・受贈によって収集した資料は、一般文献資料・中央アジア特別研究資料・東アジア特別研究資料・西アジア特別研究資料・東南アジア特別研究資料・チベット特別研究資料・近代中国特別研究資料があり、昨年度より11,500冊増加して蔵書数は725,505冊となった。

なお、今年度購入した図書資料のうち特記されるものに、「モリソンII世文庫(仮称)」3,329部がある。これはG・E・モリソン氏の次男であるアラスティア・モリソンとヘグ・モリソン夫妻が収集した東南アジアを中心とするコレクションである。昨年寄贈されたヴェラルデ文庫と共に、文庫特定事業として整理中である。

● 資 料 購 入

	和 漢 書	洋 書	そ の 他	マイクロ・フィルム	計
一 般 文 献 資 料	861 ^冊	77 ^冊	0	0 ^枚	938 ^冊
中央アジア特別研究資料	0	338	0	0	338
東アジア特別研究資料	1,407	2	0	0	1,409
西アジア特別研究資料	0	705	0	0	705
東南アジア特別研究資料	0	35	0	0	35
チベット特別研究資料	9	6	0	15,265	15,280
近代中国特別研究資料	1,154	67	0	222	1,443
計	3,431	1,230	0	15,487	20,148

● 資 料 交 換

	受 贈			寄 贈		
	和漢書	洋 書	計	国 内	国 外	計
単 行 本	1,729 ^冊	321 ^冊	2,050 ^冊	903 ^冊	468 ^冊	1,371 ^冊
定期刊行物	3,546	1,243	4,789	2,076	1,310	3,386
計	5,275	1,564	6,839	2,979	1,778	4,757

2. 図書資料の保存整理

資料の利用を考慮した資料の保存・整理の問題を積極的に検討し、「資料保存を考える会」によって計画的に作業を実施している。

なお、書庫内に「シバンムシ」が発見されたため、平成元年10月29日（日）より11月4日（土）の期間、書庫1・2号棟4・5階を臭化メチルによる密閉燻蒸を、（財）文化財虫害研究所に依頼して実施した。

●補修再製本・製本

① 区 分	単 行 本		
	和 装		洋 装
数 量	裏打 9,010葉	210冊	317冊

② 区 分	定期刊行物	製 帙	複写資料製本		その他
			和装	洋装	
数 量	1,964冊	87帙	146冊	43冊	262冊

③ 区 分	学術刊行物	皮革特殊資料
	数 量	249冊

●撮 影・焼 付

区 分	撮影駒数	焼付引伸数	フィルム反転	電子複写枚数	整理作業
数 量	37,736コマ	16,894枚	129リール	85葉	1件

●新着図書目録の刊行

東洋文庫が1988年4月から1989年3月までの間に収集した和書・中国書・朝鮮書・近代中国和書・近代中国中国書の図書目録第37号が刊行された。

3. 図書資料の利用

●図書閲覧状況

本年度の所蔵図書の閲覧状況は次の通りであった。

月	開館 日数	閲覧 者数	一日 平均	昨年同月 との比 (△印は減)	閲覧 図書数	一日 平均	昨年同月 との比 (△印は減)
4	21 ^日	219 ^人	10 ^人 _強	△26 ^人	3,266 ^冊	156 ^冊 _弱	△513 ^冊
5	21	283	13 _強	10	4,451	212 _弱	1,251
6	23	317	14 _弱	△14	4,319	188 _弱	249
7	23	307	13 _強	△13	5,008	218 _弱	△900
8	24	480	20	46	9,077	278 _強	1,459
9	22	383	17 _強	17	6,026	274 _弱	896
10	21	434	21 _弱	21	5,987	285 _強	664
11	21	411	20 _弱	18	7,666	365 _強	786
12	19	371	20 _弱	75	4,807	253	△23
1	19	214	11 _強	47	3,413	179 _強	538
2	21	236	11 _強	75	4,016	191 _強	1,676
3	23	282	12 _強	△14	3,869	168 _強	△1,177
計	258	3,937			61,905		

●閲覧図書数内訳

月	和書		漢書		洋書		合計	
	部数	冊数	部数	冊数	部数	冊数	部数	冊数
4	186	447	456	2,668	113	151	755	3,266
5	217	417	699	3,648	158	386	1,074	4,451
6	265	410	685	3,442	252	467	1,202	4,319
7	217	383	596	4,127	279	498	1,092	5,008
8	393	727	1,146	7,676	373	674	1,912	9,077
9	317	728	918	4,893	250	405	1,485	6,026
10	362	650	876	5,052	214	285	1,452	5,987
11	356	515	943	6,880	214	271	1,513	7,666
12	256	359	690	4,020	225	428	1,171	4,807
1	129	288	482	2,895	94	230	705	3,413
2	202	428	558	3,077	287	511	1,047	4,016
3	223	579	525	2,943	183	347	931	3,869
計	3,123	5,931	8,574	51,321	2,642	4,653	14,339	61,905

●展示会等への資料の貸出

図書館・博物館・美術館等が主催して行う展示会への貸出しは5件あり、貸出資料は合計25点であった。展示会名、主催者、展示期間、開催場所、おもな資料名と数量は、次のとおりであった。

展示会への資料の貸出一覧

	展示会名	主催者	展示期間	開催場所	主な資料名と数量
1	なにわ出版事情	大阪市立博物館	平成 元. 5.22— 6. 4	大阪市立博物館	四体千文書法 5 点
2	自然をみる眼	国立国会図書館	平成 元. 7.17— 8. 5	国立国会図書館	本草通串証図 1 点
3	ローマの支倉常 長と南蛮文化展 全	仙台市博物館 全	平成 元. 9.30—10.14 平成 元.10.24—11. 5	仙台市博物館 全	日本人使節ローマ 到着 8点 ローマ歓迎会記 7点
4	八犬伝物語	館山市博物館	平成 元.10.14—11.26	館山市博物館	曲亭目録 2点
5	酒の文化史	埼玉県立博物館	平成 2 . 2. 6— 3.11	埼玉県立博物館	水鳥記絵詞 2点

4. 研究資料複写サービス

国内外の研究者・研究機関の便宜に供するために行なったもので、実績は下記の通りであった。

●マイクロ・フィルム

申込件数	撮影駒数	焼付引伸枚数	ポジ・フィルム
844件	124,875コマ	71,337枚	64,055コマ

●電子複写

申込件数	焼付枚数
868件	62,174枚

III 研究事業

1. 調査研究

調査研究は、文部省科学研究費補助金によるものと、国庫の補助金による一般・特別調査研究と、並びにその他の研究助成金によるものとにわかれる。

i 文部省科学研究費による調査研究

一般研究 (A)

【課題】 チベットの歴史・宗教・言語・民俗に関する基本的資料の総合的研究

【期間】 平成元年度（3ヶ年継続事業第2年度）

【目的】 1959年のダマイラマのインド亡命を契機として約10万のチベット人がチベットからインド・ネパール・ブータンに亡命したが、それに伴い、大量のチベット語文献、多くは版本、一部は写本がそれら三国に運び出された。それらチベット語文献は、チベット及び周辺地域の、とくに歴史・宗教・言語・民俗に関する貴重な資料であるが、主としてアメリカ国会図書館のデリー収書センターの指導と援助により、幸いにも次々に複製刊行され、それによって、近年、チベット研究は世界的規模において著しく進展した。わが国においても、東洋文庫をはじめ、関係研究機関により、それら複製本の収集・整備が図られてきたが、現状ではいずれも目的を達成したとはいいがたく、チベット学界の急務として、我が国におけるチベット研究センターの役割を果たしてきた東洋文庫における網羅的な収集と組織的な整備が要望されている。

本研究組織は、上述の状況を踏まえ、関係研究機関とも密接な連絡をとりつつ、上記複製本の収集・整備をやめ、チベット周辺諸地域の歴史・宗教等の専門研究者の参加を求めて、それら収集文献の、より広い視野に立った、効果的な利用方法を確認し、わが国におけるチベット研究の推進に寄与しようとするものである。

【事業】 ① インド、ネパール、ブータン等におけるチベット語文献複製本の出版状況・出版計画の調査の継続：現在入手可能な文献の情報を調査し、ニューヨーク州立大学 The Institute for Advanced Studies of World Religions よりチベット語文献のマイクロ・フィッシュなどを収集した。

なお、現在入手不可能な文献に関しては、関係諸機関に複写・焼付け等を依頼した。

- ② 関係諸機関における複製本の収集・整備状況の調査の継続：国内各関係機関がすでに購入したチベット語文献について、アメリカ議会図書館の Accession List など各種目録を比較検討し、情報を整理した。
- ③ 東洋文庫の購入・収集した文献の整備：昨年度に引きつづき、鋭意収集した文献について、各文献の著者名、書名、出版情報、内容・宗派の種別などについての正確なデータベース（表紙の部分に出版年、発行者等の基本的な情報の記載されていない刊行物が多い）の入力を進めた。
- ④ チベット語文献複製本目録作成の準備：①によって収集したチベット語文献複製本について、広く一般の研究者に利用してもらうために、効率的な目録を作成する必要がある。そこで収集した図書をどのような形式で保管し、どのような内容の目録を作成することがよいかを関係分担者が随時討議・検討した。
- ⑤ 収集資料の整理と目録カード作成：④で検討した方針に従い、収集した資料を整理し、目録カードを作成した。

【代表者】 福田洋一（平成元年11月5日榎一雄理事長・研究代表者の逝去に伴う代表者変更）

【分担者】 歴史分野担当〔国内諸機関における収集・整備状況の調査〕

山口瑞鳳，松村 潤，山崎元一

言語・民俗分野担当〔チベット語文献複製本の出版状況の調査，東洋文庫未収集文献の収集〕

北村 甫，原 實

宗教分野担当〔国内諸機関における収集・整備状況の調査，チベット語文献複製本の出版状況の調査，東洋文庫未収集文献の収集〕

川崎信定，立川武蔵，松涛誠達，福田洋一

ii 一般調査研究

本年度は、特に、宋代史研究委員会、清代史（満蒙）研究委員会を中心に調査研究を行った。

東亜考古学研究委員会

【資料の整理】 故梅原末治評議員（京都大学名誉教授）の寄贈にかかる東亜考古学資料（写真，実測図，拓本，野帖等）の整理とその目録（日本之部・中国之部）

の作成。

古代史研究委員会

【資料の整理】 東洋文庫所蔵中国画像名、造像名、墓碑銘拓本の整理研究。

唐代史（敦煌文献）研究委員会

【資料の収集・整理・研究及び情報提供】 ① 国内外に現存する西域出土古文書の所在調査と、マイクロフィルムによる収集・整理。

② 内外の諸機関・研究者に対する既収集敦煌文献の公開、および情報の提供。

③ 『敦煌・吐魯番出土文書関係論著目録』の作成。

④ 『敦煌・吐魯番出土社会経済史関係文書集 Vol.IV—社文書—』の編集・刊行。（既刊；Vol. I—法制—, Vol. II—戸籍・計帳—, Vol. III—契約文書—）

⑤ 内陸アジア出土古文献研究会の開催。（以上、前年度の継続）

7月15日（土）熊本 裕 「コータン語研究の現段階」

9月16日（土）関尾史郎 「田畝作人文書」小考——トゥルファン出土高昌国身分制関係文書研究序説——」

2月17日（土）施 萍婷 「敦煌研究院、上海図書館、天津芸術博物館蔵古写本について」

宋代史研究委員会

【資料の整理・研究】 ① 『宋史選舉志の訳註』の作成。

② 『宋史食貨志』研究、訳注作成。（前年度の継続）

③ 宋代研究文献目録及び速報の作成。

④ 『宋会要輯稿』食貨之部の要項及び語彙索引の作成。

明代史研究委員会

【資料の整理・研究】 ① 『万曆野獲編』（元明史料筆記叢刊之一）を主として、明代社会経済に関する文献の講読・研究。（隔週、研究会の開催）（前年度の継続）

清代史（満・蒙）研究委員会

【資料の整理・研究】 ① 「東洋文庫所蔵旧満州檔」の整理。

② 「東洋文庫所蔵鑲紅旗檔 乾隆朝」（II）の整理・研究。

③ 『崇徳三年満文檔冊』の講読研究会の開催。（隔週、研究会の開催）（以上、前年度の継続）

近代中国研究委員会※

【資料の整理・研究】 ① 中国共産党資料の書誌的研究。

日本研究委員会

- 【資料の整理・研究】 ① 『東洋文庫所蔵岩崎文庫貴重書誌解題（Ⅰ）』の作成及び（Ⅱ）の整理・研究。（前年度の継続）
② 日本関係洋書解題目録の作成。

朝鮮研究委員会

- 【資料の整理・研究】 ① 李氏朝鮮の財政・民政関係史及び外交文書資料の講読・研究。（研究会の開催）
② 漢字の朝鮮音韻の研究・調査。

中央アジア・イスラム研究委員会

- 【研究・資料の収集・整理】 ① 『イスラム革命関係小冊子類解題目録』の作成。
② 『東洋文庫所蔵アラビア語、トルコ語・オスマン語文献目録（補遺編）』の作成。
③ イスラム国家論・都市論の月例研究会の開催。（以上、前年度の継続）
6月10日（土） 今澤浩二 「オスマン朝とティムール：14世紀末のアナトリアをめぐり諸情勢」
7月15日（土） 新井政美 「1910年代におけるトルコ民族主義者の組織化について」
同 上 シンポジウム 「外からみた「イスラム都市」」
（5月の月例研究会として、重点領域研究「イスラムの都市性」との共催）
報告者：浜下武志，陣内秀信，樺山紘一
コメンテーター：梅村 坦，谷水 潤，私市正年
司会：中村光男
11月25日（土） 清水和裕 「アッバース朝のアトラークと奴隷軍人」
12月16日（土） 設楽国広 「アンカラの変容：共和国の首都への道」
（重点領域研究「イスラムの都市性」との共催）
1月20日（土） 谷口惇一 「11世紀前半のハラブ Halab」
④ 中央アジア・トルコ諸民族史の研究。
⑤ イスラム社会の構造の研究。
⑥ 隊商貿易史の研究。
⑦ トルコ日本両国の近代化の比較研究。

チベット研究委員会※

- 【資料の整理・研究】 ① 東洋文庫所蔵チベット語文献の整理・研究。
② チベット学に関する研究会の開催。（以上、前年度の継続）

南方史研究委員会

【資料の整理・研究】 ① 東洋文庫所蔵南アジア史関係資料（辻文庫図書）の整理とその分類目録及び索引の作成。

② 東南アジア関係資料の収集・整理・研究。（前年度の継続）

（なお、※印の付してある研究委員会の事業は、「iii特別調査研究」事業を別途に行っている。）

iii 特別調査研究

チベット特別調査研究（チベット研究委員会）

【目的】 チベット人との協同によるチベットの歴史・言語・宗教・社会の総合的研究

【研究課題】 チベット語文語辞典の編纂

【事業内容】

1) チベット語文語辞典編纂のための調査・研究

チベット研究委員会招聘のチベット人研究者（ゲールク派・デブン寺ゴマン学堂長 Kenpo of Gomang Detsang College）Tempa Gyaltzen 氏の協力の下に下記の作業を進めた。

- ① 東洋文庫所蔵チベット撰述蔵外文献解題目録編纂の資料として、各文献の奥書を収集し解読，分析を進めた。
- ② 現代チベット語について口語資料を収集し，記述的研究を進めた。
- ③ トウカン『一切宗義』「ゲールク派」の章の邦訳・訳注を準備した。
- ④ トウカン『一切宗義』「モンゴル・コータン・シャムバラの仏教」「ゲールク派」各章のテキストの整備と機械処理を行った。
- ⑤ サキヤ・パンディタ『論理学総論』に関する定期的研究会を開催した。
- ⑥ 『スタイン目録』注記篇の調査を進めた。
- ⑦ 『Materials for the Tibetan-Mongolian Dictionaries』Vol. 2 の調査を進めた。

2) チベット文献の収集・整理

区 分	和漢書	洋 書	マイクロ・フィッシュ
数 量	9冊	6冊	15, 265枚

3) 研究成果の刊行

- ① 『Materials for the Tibetan-Mongolian Dictionaries』 Vol. 2
B5判 1冊 (刊行済)
- ② 『チベット論理学研究』第2巻 B5判 1冊 (刊行済)
- ③ 『Text of Tibetan Folktales』 Vol. 7
B5判 1冊 (刊行済)
- ④ 『チベット特別調査研究年次報告』 A5判 1冊 (刊行済)

近代中国特別調査研究 (近代中国研究委員会)

【目的】 近・現代中国研究関係資料の収集・整理とこれらの資料の書誌的研究

【研究課題】 近・現代中国研究関係資料の書誌的研究

【事業内容】

- 1) 共同利用研究
- 2) 情報交換および参考業務 (近代中国研究事務室において常時遂行)
- 3) 図書資料の収集・整理

区分	和漢書	洋書	マイクロ・フィッシュ
数量	1,154冊	67冊	222枚

4) 研究成果の刊行

- ① 『近代中国研究彙報 第12号』 A5判 1冊 (刊行済)

iv その他の研究助成金による事業

三菱財団人文科学研究助成金特別事業 (日本研究委員会)

【課題】 岩崎文庫所蔵和漢貴重古典籍に関する書誌学的総合調査研究
[研究代表者：亀井 孝]

【期間】 平成元年度 (昭和63年度事業終了・平成2年度継続申請予定)

【目的】 モリソン文庫と並んで東洋文庫の蔵書の一方の中核を成す岩崎文庫は、岩崎久弥の蒐書にかかる善本貴籍の宝庫として夙に著名であり、種々の

学問分野に於ける第一級資料に富む。しかし、その蒐書全体に亘る本格的基礎調査は現在までの所、未完成である。その理由は、蒐書全体が余りにも膨大で、調査には容易ならざる費用と時間と努力とを要することにあった。夙く昭和九年にはば全体を収めた書目「岩崎文庫と漢事目録」が公刊されているが、これは殆ど書名と冊数のみの羅列に等しく、何らの書誌学的データを含まないのので、これを以て所掲の文献を正しくアイデンティファイする事は事実上不可能であり、その故にこれを参照しようとする研究者達にとっては極めて不便なものに留まっている。その上、目録の記述それ自体、今日の学的水準から見て疑問の点も多く、なお遺漏も少なくない。しかし当時の書誌学的水準を考えれば、それも仕方のない事であった。幸いに近年書誌学は長足の進歩を遂げ、参考書の整備、写真技術やコンピューターの進歩等の条件も整い、学問の諸分野の基礎となる精密な書誌学的研究が可能となった。昭和63年度、貴財団助成に依って、我々は書誌調査に着手すると共に、本研究事業の研究上の基礎的条件を概ね整備する事が出来た。今後はこれらを駆使して、引続き諸本の本格的書誌調査とその結果の整理大成を期し、やがてこれを完成せしめることを得るならば、全国の（就中地方在住の）研究者は居ながらにして本文庫所蔵の概要を知り得る訳であるから、結果として歴史学・哲学・社会学・文学等、多方面に亘り、広く学界を益することは疑いない。

【事業】 書誌学的調査というのは、単に書物の外形的事実を調査するというものをのみ意味するものではない。寧ろその本旨は、対象とする文献の筆写・刊行の次第を精密に調べ、他の伝存諸本と、本文・外形の両面に亘って適切に比較検討する事によって、当該文献流伝史上に於いて該書の位置を明らかにし、以てそれらの文献に係わる諸研究の、その最緊要なる礎石たらしめようとするにある。謂わば、書物・文献を対象とせる社会考古学的基礎研究であると言うことが出来る。そこで亀井孝研究代表者のもとに共同研究分担者は、随時、各分担者の調査結果について、互いに疑問点を提示し検討し、術語法等に関して意思統一を図り、下記の具体的作業を遂行した。

- ① 亀井は全体の統括並びに国語学関係資料の一部、分担者の佐竹昭広は中世文学文献、酒井憲二は辞書等国語学関係並びに歴史学文献、枋尾武は和刻本漢籍並びに準漢籍、石塚晴通は古版本及び古活字版の一部分、柳田征司は中世近世の抄物並びに仏教関係文献、林望は近世文学並びに古活字版、等を中心として各自調査を進めた。
- ② 本研究プロジェクトは、基礎的な調査が順調に進められ、安土桃山期、江戸初期の文献については、各研究分担者の合同検討会において、既に

調査ノートの書式並びに述語法の意味統一がなされ、当初の書誌学的調査は終了した。

- ③ ついで、江戸期の膨大な各資料の調査と整理については、各文献の巻頭巻末・刊記・序跋・その他書誌学的に問題と認められる箇所を抽出し、合同検討会のもとに下記の作業手順により具体的調査・整理を進めた。

比較調査並びに書誌記述の為の参考に備えることとし、下記の如く予備調査を進めた。

- (イ) 必ず原本に就いて詳密に調査し、その結果を統一的基準に基づいて正確に記述する。(従来ややもすれば目録操作等のみで扱って簡単に処理しようとする弊があった。)
- (ロ) 出来る限り写真等に拠る複写・書影見本を作成して、他文庫・図書館所蔵の現存諸本と逐一比較し、筆跡・版本の同異等の事実を明確にする。
- (ハ) 写本の場合は、諸本間に対校し、適切な本文批判の方本に基づいて、その本文伝系上の位置を明らかにする。(この場合、当該資料に関する既存の研究資料・工具書を縦横に駆使して調査の能率化を図る。)

生化学工業株式会社寄付金特定事業 (南方史研究委員会)

【課題】 東南アジア研究資料収集整理プロジェクト [研究代表者：山本達郎]

【期間】 平成元年度～同3年度 (3ヶ年計画)

【目的】 本プロジェクトは生化学工業株式会社社長水谷当弥氏の寄付金5千万円を以て、東南アジア研究を促進するため、その研究資料を収集・整理し、研究者に公開することを目的とする。

- 【事業】 1) 当東洋文庫の基礎となったモリソン文庫の旧所有者アーネスト・モリソン氏の令息アラステヤ・モリソン氏 (Alastair Morrison) の収集した、東南アジア関係研究文献3,281点(モリソン2世文庫)を購入し、その整理に着手した。
- 2) 先に寄贈をうけたヴェラルデ文庫 (主としてフィリピン関係の研究文献) の整理に着手した。

V 研究委員会

研究部の研究事業を企画実施する研究委員会は、5部門12研究委員会にわかれる。平成元年度の各研究委員会の常任委員は以下のとおりである。

第1部 中国研究

東亜考古学：関野 雄

古代史：越智重明，宇都木 章

唐代史（敦煌文献）：池田 温，菊池英夫，土肥義和，藤枝 晃，松本 明

宋代史：草野 靖，佐伯 富，斯波義信，竺沙雅章，千葉 燧，中嶋 敏
渡辺紘良

明代史：鈴木立子，田中正俊，鶴見尚弘，山根幸夫，和田博徳，渡辺 宏

近代中国：市古宙三，河鱗源治，滋賀秀三，田中正俊，丁 果，本庄比佐子
矢沢利彦

第2部 日本研究

日本：石塚晴通，海野一隆，亀井 孝，酒井憲二，佐竹昭広，田中時彦，枋尾 武
鳥海 靖，林 望，柳田征司

第3部 東北アジア研究

満州・蒙古（清代史）：石橋崇雄，岡田英弘，神田信夫，C.A.グニエルス
松村 潤，宇野伸浩

朝鮮：河野六郎，末松保和，武田幸男，古屋昭弘，森岡 康，山内弘一

第4部 中央アジア・イスラム・チベット研究

中央アジア・イスラム：梅村 坦，後藤 明，小松久男，佐藤次高，清水宏祐
志茂碩敏，永田雄三，花田字秋，本田實信，護 雅夫
八尾師 誠，新免 康

チベット：川崎信定，北村 甫，福田洋一，松濤誠達，山口瑞鳳
テンパ・ゲルツェン

第5部 インド・東南アジア研究

南方史：荒 松雄，池端雪浦，後藤均平，弘末雅士，原 實，三根谷 徹
山崎元一，山本達郎，吉岡司郎

2. 学 術 図 書 出 版

東洋文庫和文紀要

『東洋学報』 第71巻第1・2号	平成元年12月刊	A5判	225頁
『東洋学報』 第71巻第3・4号	平成2年3月刊	A5判	256頁

東洋文庫欧文紀要

“Memories of the Research Department of the Toyo Bunko”No.47 1989年刊

B5判 164頁 (付折込写真1枚)

東洋文庫各種研究委員会刊行物

チベット研究委員会

『Materials for the Tibetan-Mongolian Dictionaries』 平成2年3月刊

B5判 153頁

『チベット論理学研究 第2巻』 平成2年3月刊 B5判 122頁

『Text of Tibetan Folktales Vol. 7』 平成2年3月刊 B5判 271頁

『チベット特別調査研究年次報告(平成元年度版)』 平成2年3月刊 A5判
10頁

近代中国研究委員会

『近代中国研究彙報』 第12号 平成2年3月刊 A5判 89頁

日本研究委員会(平成元年度特別研究資料出版担当)

『東洋文庫所蔵岩崎文庫貴重書書誌解題(I)』 平成2年3月刊 B5判
243頁(含・写真108頁)

東洋文庫諸目録其他刊行物

『東洋文庫新着図書目録—和書・中国書・朝鮮書・近代中国和書・近代中国中国
書—』 第37号 平成2年3月刊 B5判 2+139頁

『東洋文庫書報』 第21号 平成2年3月刊 A5判 99頁

『東洋文庫年報』(昭和63年度版) 平成2年9月刊 A5判 67頁

3. 講演会

春期 東洋学講座(共通テーマ:海上東西交渉史上の諸問題)

第389回 平成元年6月13日(火)

「紅海沿岸の諸遺跡」

財団法人中近東文化
センター主任研究員

川床 睦夫氏

第390回 平成元年6月20日(火)

「中世の造船技術—泉州・新安の
沈没船をめぐって—」

神戸商船大学教授

松本 哲氏

第391回 平成元年6月27日(火)
「海のシルクロードとインド」 東京大学教授 辛島 昇氏

第392回 平成元年7月4日(火)
「陶磁貿易からみたフィリピン」 上智大学教授 青柳 洋治氏

秋期・東洋学講座 (共通テーマ: アジアの革命)

第393回 平成元年10月17日(火)
「アラブ・ワッハブ運動と
サウジアラビア」 国際大学助教授 小杉 泰氏

第394回 平成元年10月24日(火)
「中国の近代化と辛亥革命」 日本女子大学教授 久保田文次氏

第395回 平成元年10月31日(火)
「トルコ革命」 東洋文庫研究員 永田 雄三氏
東京外国語大学助教授

第396回 平成元年11月7日(火)
「イラン・イスラム革命」 東洋文庫研究員 八尾師 誠氏
東京外国語大学助教授

特別講演会 (不定期)

第1回 平成元年6月10日(土)
「明代田賦科則及其改革」 中国福建師範大学 唐 文基氏
歴史系副教授

第2回 平成元年6月24日(土)
「ネパール国立公文書館の
写本部門」 ネパール国立公文書館 B.D.ダンゴール氏
主任研究員

第3回 平成元年7月8日(土)
「曹寅与日本——以新発現的曹藏
《吾妻鏡》為中心——」 中国社会科学院歴史 馮 佐哲氏
研究所副研究員

- | | | | |
|-----|---------------------------------------|----------------------|-----------|
| 第4回 | 平成元年9月5日(火)
「ハンガリーにおけるアルタイ学
研究」 | ハンガリーセゲト
大学教授 | A.ローナーシュ氏 |
| 第5回 | 平成元年11月24日(金)
「満族先世的発祥地問題」 | 中国中央民族学院
名誉主任終身教授 | 王 鐘翰氏 |
| 第6回 | 平成元年12月9日(土)
「萬斯同『明史列伝』について」 | 中国復旦大学歴史系
教授 | 呉 傑氏 |

4. 研究会 (東洋文庫談話会)

- | | | | |
|--------------|--|--------------------|--------|
| 平成2年2月24日(土) | 「『マハーバーラタ ナラ王物語』
の邦訳(岩波文庫)について」 | 金沢大学教授
文部省内地研究員 | 鎧 淳氏 |
| 平成2年3月17日(土) | 「『東トルキスタン・イスラム共和
国(1933—34年)』に関する予備
的考察」 | 東洋文庫奨励研究員 | 新免 康氏 |
| 平成2年3月24日(土) | 「モンゴル帝国の宮廷の経済的側
面」 | 東洋文庫奨励研究員 | 宇野 伸浩氏 |

5. 研究者養成

- | | | |
|---------|-------|--|
| 北アジア研究 | 宇野 伸浩 | 「モンゴル帝国および元朝のオールド」 |
| 中央アジア研究 | 新免 康 | 「20世紀前半期の東トルキスタン史——トルコ系ムスリムの民族主義・分離主義を中心として——」 |
| インド研究 | 吉岡 司郎 | 「『Mahābhārata』に見える古典インドの道徳・倫理思想の研究」 |

6. 学術情報提供

i 研究者の交流および便宜供与サービス

1) 国内研究者の受入

鎧 淳 文部省内地研究員
金沢大学文学部教授 「特殊語形のサンスクリット語彙の研究」(文部省高等教育局の要請)(平成元年9月1日～平成2年2月28日下半期間)

2) 外国人研究者の受入

唐 文 基 福建師範大学歴史系
副教授 「明代社会経済史の研究——特に土地所有関係と徭役制度について——」(昭和63年6月27日～平成元年6月26日まで1ヶ年間)(霞山会及び中国教育国際交流協会の依頼)

馮 佐 哲 中国社会科学院歴史
研究所副研究員 「清代前期日中経済・文化交渉史の研究」(平成元年5月10日～同年8月10日まで92日間)(日本学術振興会の依頼)

丁 果 上海師範大学歴史系
助手 「近代日中関係及び日本近現代史の研究」(昭和59年10月以降受入中)(中国政府派遣)

Tempa Gyaltsen 東洋文庫招聘研究員 「東洋文庫チベット研究委員会による『チベット語文語辞典』の編集協力」(平成元年5月以降招聘)

李 格 中国社会科学院歴史
研究所助理研究員 「清初の政治史および清初人物・伝記の研究」(平成元年度以降1ヶ年間)(中国社会科学院歴史研究所の依頼・私費)

3) 研究者の派遣

4) 外国人研究者への便宜供与

Argentina

C.Dragonetti

Prof.,Centro de Investigaciones Silososicas.

F.Tola	Emeritus Prof.,National Univ.of San marcos.
Austria	
E.Steinkellner	Prof.Dr., Institut fur Tibetologie und Buddhismuskunde, Univ.Wien.
Butan	
R.Dorji	Secretary,National Library Special Commision,Thim- phu Butan.
China (People's Republic)	
白 鋼	中国社会科学院政治学研究所副研究員
叶 維鈞	〃 〃 〃
耿 小曼	〃 〃 助理研究員
謝 桂華	〃 歷史研究所副研究員
馮 佐哲	〃 〃 〃
武 鉄兵	〃 〃 図書館々員
孫 新	〃 外事局亞非処処員
曲 翰章	〃 文献情報センター主編人
施 萍婷	敦煌研究院敦煌遺書研究所々長
林 代昭	北京大学副教授
吳 楓	東北師範大学古籍研究所々長, 教授
李 慶	復旦大学
徐 連達	〃 歴史系教授
唐 文基	福建師範大学歴史系副教授
郭 金彬	〃 〃
郭 鉄鋼	河北省青年連合会弁公室
郝 維民	内蒙大学内蒙古近现代史研究所々長, 教授
特 布信	〃 教授
特 木額	〃 自治区檔案局々長
四 海	〃 〃 檔案館々長
晋美旺秋	西藏拉薩社会科学院西藏藏学会理事
黄 侯興	郭沫若著作編集委員会
雷 仲平	〃
傅 緑永	中国社会科学院外事局
果 洪昇	〃 民族研究所副研究員
金 淳培	〃 〃 助理研究員
李 金山	〃 哲学研究所副研究員
王 鐘翰	中国中央民族学院歴史系研究生院名誉主任終身教授
王 堯	中央民族学院教授
哈雅·林松	〃 副教授

薛虹	東北師範大学明清史研究所教授
楊慶鎮	遼寧社会科学院副研究員
佟永功	遼寧省檔案館
陳達生	福建社会科学院研究員
吳傑	復旦大学歴史系教授
張惠才	中共党史学会辦公室
照那斯圖	中国社会科学院民族研究所々長
王連茂	泉州海外交通史博物館々長
湯重南	中国社会科学院世界歴史研究所研究員
王玉茹	中国天津南開大学經濟研究所
丁日初	上海社会科学院經濟研究所研究員
鄧耀宗	四川省攀枝花市文物管理处主任, 副研究員
張開元	雲南省大理白族自治州博物館々長
楊学政	〃 社会科学院宗教研究所副所長, 副研究員
郭大烈	〃 〃 民族研究所々長, 副研究員
喬亨瑞	〃 〃 社会学研究所助物理研究員
李時岳	広東社会科学院
鞠德源	中国第一歴史檔案館
胡担	中国中央民族学院藏学研究中心教授

China (Taiwan)

胡進杉	国立故宫博物院文献処々長
劉家駒	〃 編纂, 輔仁大学教授
王兆徵	国立政治大学文理学院東方語系教授
梁其姿	台北中央研究院

France

A.Forest	Dr., Univ.Paris VII, Centre National de la Recherche Scientifique.
----------	--

Germany (Federal Republic)

D.S.Ruegg	Prof.Dr., Institut für Kultur und Geshichite Indiens und Tibets,Univ.Hamburg.
D.Schuh	Prof.Dr., Seminer für Sprach und Kulturwissenschaft Zentralasiens,Univ.Bonn.
H.Uebach	Dr., Bayer. Akademie der Wissenschaften,Kommission für zentralasiatische Studien.
J.L.Panglung	Dr., Bayer. Akademie der Wissenschaften,Kommission für zentralasiatische Studien.
L.S.D.Rinpoche	Dr., Zentralasiatisches Seminar,Univ.Bonn.
S.Dietz	Dr., Sanskrit-Wörterbuch der Turfan-Funde,Göttingen.

- German (Democratic Republic)
 R.Felber Dr. Prof. of Chinese History Humboldt Univ.Berlin.
- Hungary
 A.Róna-Tas Prof., Director of Chair of Altaic Studies,Tózséf Attila univ., Szeged
- India
 J.Samten Assistant Prof.,Central Institute of Higher Tibetan Studies, Deemed Univ.Sarnath Varanasi.
- Italy
 G.Bertuccioli Professore ordinario dell Universita di Roma (1).
- Korea
 吳 金成 Seoul 大学校人文大学教授
 金 容栢 国立中央図書館
 吳 明子 " "
 河 永輝 韩国 seoul 雅丹文化財団企画員
 李 泰鎮 Seoul 大学校教授, 奎章閣図書館管理室長
 梁 銀啓 圓光大学教授
 鄭 舜日 " "
- Mongolian People's Republic
 Ts.Batbayar Research Fellow, Academy of sciences, Institute of Orient Studies.
- Nepal
 B.D.Dangol Chief, National Archives.
- Norway
 P.Kvarne Prof. Dr., Department of Religion, Univ.of Oslo.
- Poland
 A.Bareja Institute of Mongolian Studies at Orient, Univ. of Warsaw.
- Tailand
 P.Kongchana Assist. Prof. Department of History, Faculty of Social Science,Srinakharim Univ.
 S.Sungsri Librarian, Library and Information Center, National Institute of Development Administration, Bangkok.
 D.Na Pombejra Lecture, Dept.of History, Chulalongkorn Univ.
- Turkish Republic
 Yavuz Ercan Prof. Dr. Ankara Univ.
 Özel Ergenç "
- U.K.
 D.J.Helliwell Librarian, Bodleian Library, Oxford.

U.S.A

J.Schoening Dr., Doctoral Candidate, Univ. of Washington.
 R.V.Simmons Univ. of Washington.
 T.F.Kleeman Univ. of Pennsylvania.
 A.J.Stone Librarian, UNICEF Library, New York.

U.S.S.R

V. Miasnikov Institute of the Far East Studies, Moscow.

Viet-nam

梨 潘輝 ハノイ大学ベトナム研究協力センター所長, 教授

ii 研究会等への会場提供サービス

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
研究会等回数	10	16	16	15	4	13	10	13	8	8	13	14	140回
参 加 人 員	114	260	444	315	44	217	246	225	120	99	125	181	2,390人

iii 研究資料の覆刻・増刷・刊行サービス

東洋学報第70巻3・4号, 第71巻1・2号	各500部
近代中国研究彙報 第11号	70部
梅原考古資料目録II	30部
東洋文庫書報など2種	各50部

(なお、「図書資料の閲覧(協力)サービス」「研究資料複写サービス」の事業報告については、『II, 図書事業』の部に便宜上, 掲載した。)

7. 職員の研究業績

期間：平成元年4月1日～平成2年3月31日まで

略号：①…著書 ②…編書 ③…論文 ④…学会動向 ⑤…書評・紹介 ⑥…
翻訳 ⑦…講演 ⑧…その他（評論・雑記・座談会等）

荒 松雄

①「中世インドの権力と宗教——ムスリム遺跡は物語る」(岩波書店, 1989年4月, xxi+362+37頁, 137挿図), ③「歴史家としてのネルー」(未来 No.279—281, 1989年12月—1990年2月), ⑦“Human society and the progress of Scientific technology——With reference to Nehru’s approach to history”, (Jawaharlal Nehru Centenary Seminar, 1989年9月26日, ニューデリー)。

池田 温

②『中国古代寫本識語集録』(大蔵出版社, 486頁, 図版72頁, 1990年3月), ③『『大唐新語』管見』(汲古15, 25～30, 24頁, 汲古書院, 1989年6月), 「陳寅恪先生和日本」(『紀念陳寅恪教授國際學術討論會文集』, 115～138頁, 中山大学出版社, 1989年6月), 「中國古代における重數節日の成立」(中國古代史研究六, 21～41頁, 研文出版, 1989年11月), 「Aperçu général des manuscrits chinois de la Collection Ôtani」(『Documents et Archives provenant de l’Asie Centrale』, 239～249頁, 同朋舎, 1990年2月), ④「敦煌学と日本人」(日本学13, 131～139頁, 名著刊行会, 1989年5月), 「中国法学界の新たな息吹」(読売新聞夕刊15面, 1989年5月30日), ⑤『『國史釋論(上・下) 陶希聖先生九秩榮慶祝壽論文集』』(東方99, 25～28頁, 東方書店, 1989年6月), 「西脇常記譯註『史通内篇』」(週刊読書人, 1989年9月18日4面), ⑦「日本文獻所引中國古代法律資料管見」(中國法律史國際學術討論會, 1989年4月20日, 北京), 「敦煌における土地稅役制をめぐって——九世紀を中心として——」(唐代史研究会, 1989年7月9日, 箱根), 「韓琬〈御史臺記〉輯考」(國際唐史學術討論會, 1989年10月12日, 西安), 「中国唐史學術討論會に参加して」(白山史学会大会, 1989年12月2日, 東洋大学), 「中国唐史学会簡介」(中國古代史研究会例会, 1990年1月12日, 青山学院大学史学科), ⑧「租庸調の理念と現実」(週刊朝日百科世界の歴史32, B218～221, 224頁, 1989年7月), 「唐の太宗」(週刊朝日百科世界の歴史33, C202～205頁, 1989年7月), 「先学を語る——仁井田陞博士——」(滋賀秀三司会座談会, 東方学78, 179～206頁, 1989年7月), 「研究者としての西川先生」(書道研究1989—8, 50～59頁, 美術新聞社, 1989年8月), 「西川寧先生の思い出」(書品300, 32～37頁, 1989年9月), 「閉幕式上發言」(『紀念陳寅恪教授國際學術討論會文集』, 43～45頁, 1989年6月), 「中国・朝

鮮の史書と六国史」(週刊朝日百科日本の歴史別冊4, 9~10頁, 1990年1月),
「榎一雄先生を悼む」(通信11, 5~6頁, 日仏東洋学会, 1990年3月)。

池端 雪浦

③“The Propaganda Movement Reconsidered”, (*Solidarity*, 122 (April-June 1989), pp.78~99. Manila), “Popular Catholicism in the Nineteenth-Century Philippines: The Case of the Cofradia de San Jose”, (*Reading Southeast Asia*, pp.109~188, Ithaca, New York: Cornell University, 1990), ⑦“Some New Insights on the Cofradia de San Jose” (Paper read at the 3rd International Philippine Studies Conference, Quezon City, Philippines, July 13-17, 1989), 「フィリピン——南部ムスリム社会の統合問題を中心に——」(史学会大会シンポジウム「アジアにおける多民族社会と宗教——フィリピン・インド・ソ連・エジプト——」1989年11月12日, 要旨: 史学雑誌98-12, 110~112頁, 1989年12月), ⑧「ホセ・リサールの生涯」(途上国の英雄像2) (『国際協力』1989年9月, 34~35頁), 「フィリピン・カトリック社会の歴史的形成をめぐって」(『フィリピンの宗教と社会——シンポジウム(1989年2月13日)全記録』5~14頁, 鹿児島大学南太平洋海域研究センター, 1989年10月)。

石橋 崇雄

①『中国史籍解題辞典』(神田信夫・山根幸夫編, 分担執筆, 燎原書店, 1989年9月, 4+357+21頁), ③「『戸部成語』(『清文備考』所収) 満洲語索引(H~Y)——『六部成語』総合索引への一環として——」(国士館大学情報科学センター紀要10, 9~27頁, 1989年3月), 「『吏部成語』(『清文備考』所収) 満洲語索引——『六部成語』総合索引への一環として——」(東京女学館短期大学紀要12, 9~22頁, 1990年2月), 「『刑部成語』(『清文備考』所収) 満洲語索引——『六部成語』総合索引への一環として——」(国士館大学情報科学センター紀要11, 61~79頁, 1990年3月), ④「中国興城国際袁崇煥をめぐる学術討論会に参加して」(明代史研究17, 59~63頁, 明代史研究会, 1989年3月), 「清朝入関前における諸問題をめぐる学術討論会」(清史研究4, 17~19頁, 清史研究会, 1989年9月), 「袁崇煥をめぐる学術討論会」(清史研究4, 19~21頁, 清史研究会, 1989年9月), ⑤「近年刊行された満洲語関係書籍」(清史研究4, 9~13頁, 清史研究会, 1989年9月), ⑧『孔子——為礼, 楽, 仁而生の人』(〈世界名人伝記『孔子』解説〉, 144頁, 北京・学術期刊出版社, 1989年1月)。

宇都木 章

②『中国史籍解題辞典』(先秦の部, 神田信夫・山根幸夫編, 燎原書店, 1989年9月), ③「春秋にみえる魯の公女(一)」(中国古代史研究六, 76~97頁, 研文出版, 1989年11月), ⑥「北京大学歴史系考古教研室周周組編著『商周考古』(商周

考古学概説」(監訳；蔡和璧，佐藤三千夫，橋本由美と共訳，燎原書店，1989年4月，322頁)。

梅村 坦

④“Japonya’da Göktürkler ve Uygurlarla ilgili olarak Japonca yayınlanan araştırmaların bibliyografyası” (Türk Dili Araştırmaları Yıllığı-Belleten 1985’den ayırbaşım, 1989, İstanbul, pp.211~254, [林徹と共著]), 「中国におけるウイグル遺文の現況と研究」(唐代史研究会会報2, 8~9頁, 唐代史研究会, 1989年2月28日), ⑦「『日本における中央アジア関係研究文献目録』とその索引・正誤について」(第26回野尻湖クリルタイ[日本アルタイ学会], 1989年7月22日, 野尻湖ホテル), 「遊牧民と定居社会：新疆の事例から——問題提起として——」(国立民族学博物館共同研究「遊牧民の歴史と現在」第二回研究会, 1989年11月8日, 国立民族学博物館), 「新疆維吾爾自治区の資料保存と研究状況」(「アジアと資料」研修講座4, 1989年11月14日, 上智大学), ⑧「ウイグル民族史とイスラーム」(高校通信(東書)日本史・世界史153, 6~7頁, 東京書籍, 1989年5月1日), 「パクス・タタリカ——東トルキスタン史の立場から——」(イスラームとモンゴル(中近東文化センター研究会報告No.10)), 101~111, 260~272頁, 中近東文化センター, 1989年7月31日), 「キルギズの村トグルメティ」(トルコ文化研究4, 62~70頁, 1989年11月30日)。

海野 一隆

③「神宮文庫所蔵の南蛮系世界図と南洋カルタ」(有坂隆道編『日本洋学史の研究』IX, 9~36頁, 創元社, 1989年4月), ⑦“Maps as Picture : The Old Chinese View of Maps” (XIII th International Conference on the History of Cartography, Amsterdam, 1989年6月26日), ⑧「南瞻部洲万国掌葉之図」(『国史大辞典』10巻, 782頁, 吉川弘文館, 1989年9月), 「南蛮系世界図」(同, 793頁), 「日本の古地図」(Guest Information Japan Now 1990, 166~179頁, 東京, CAN, 1990年1月), 「秋岡古地図コレクション名品展」(地図情報9-4, 30~31頁, 地図情報センター, 1990年3月)。

越智 重明

③「法家の説をめぐって」(久留米大学比較文化研究所紀要6, 1~79頁, 久留米大学比較文化研究所, 1989年4月), 「日本における魏晋南朝の貴族制研究」(久留米大学比較文化研究所紀要7, 71~107頁, 久留米大学比較文化研究所, 1989年11月), 「一小土豪の系図——政治権力との関係を中心として」(久留米大学比較文化研究所紀要大学院教授論集1, 63~85頁, 久留米大学比較文化研究所, 1990年1月), 「儒家と法家との孝」(久留米大学法学5・6, 1~43頁久留米大学法学部, 1990年3月), ⑦「日本における魏晋南朝の貴族制研究」(民国以来国史研究的回

顧与展望研討会，1989年8月2日，台湾大学)。

岡田 英弘

③“The Chinggis Khan Shrine and the Secret History of the Mongols” (Klaus Sagaster ed., *Religious and Lay Symbolism in the Altaic World and Other Papers*, Otto Harrassowitz, Wiesbaden, 1989, pp.284~292), “Jesuit Influence in Emperor K’ang-hsi’s Manchu Letters” (Giovanni Stary ed., *Proceedings of the XXVIII Permanent International Altaistic Conference, Venice 8-14 July 1985*, Otto Harrassowitz, Wiesbaden, 1989, pp.165~171), “Dayan Khan in the Battle of Dalan Terigün” (Walther Heissig & Klaus Sagaster ed., *Gedanke und Wirkung : Festschrift zum 90. Geburtstag von Nikolaus Poppe*, Otto Harrassowitz, Wiesbaden, 1989, pp.262~270), 「ヨーロッパから天安門を望んで」(月曜評論967, 2頁, 月曜評論社, 1989年8月7日), 「中国人の日本観」(諸君! 22-3, 186~194頁, 文藝春秋, 1990年3月), 「歴史の見方について」(月曜評論994, 1頁, 月曜評論社, 1990年2月12日), ④「第32回 PIAC 報告」(野尻湖クリルタイ, 1989年7月22日), 「第32回国際アルタイ学会」(アジア・アフリカ言語文化研究所通信67, 52~57頁, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 1989年11月), ⑦「日本人の非国際性とは何か」(日立総合経営研修所, 1989年5月24日), “Dayan Khan in the Biography of Altan Khan” (32nd Meeting of the Permanent International Altaistic Conference, Oslo, 1989年6月14日), “Lecture” (Mongolia and Inner Asia Studies Unit, University of Cambridge, 1989年6月22日), “The Third Dalai Lama and Altan Khan of the Tümed” (国際チベット学会第6回学術セミナー, 成田, 1989年9月1日), 「台湾の歴史と将来: 民族問題を中心として」(国際関係基礎研究所, 1989年9月14日, 全文: 国際関係基礎研究所刊, 1~35頁, 1989年11月13日), 「中国と韓国: その違い」(フジゼロックス第6期異文化間コミュニケーション研究会, 1989年9月22日), 「コメント」(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究プロジェクト「未開概念の再検討」研究会, 1989年11月20日), 「台湾事情に関するブリーフィング」(三菱信託銀行本店, 1989年12月7日), 「二十一世紀の中国と日本」(国際関係基礎研究所, 1990年1月23日), 「ユーラシア大陸の歴史と民族」(日本文化会議月例懇談会, 1990年3月16日), ⑧「中国人の出稼ぎ」(文化会議245, 1頁, 日本文化会議, 1989年11月), 「質問」(日本文化会議年次集会シンポジウム「昭和史の検証: 内と外からの視点」, 1989年9月23日, 全文: 文化会議247, 34・35頁, 1990年1月), 「大東亜共栄圏の再来」(月曜評論994, 4頁, 1990年2月12日), 「東ベルリンに吹く風」(月曜評論995, 4頁, 1990年2月19日), 「失われて取りもどされた歴史」(月曜評論996, 4頁, 1990年2月26日), 「異文化の価値」(月曜評論997, 4頁, 1990年3月5日), 「千年王国のなごり」(月曜評論998, 4頁, 1990年3月12日), 「ソドノム首相の名刺」(月曜評論999, 4頁, 1990年3月19日), 「内藤湖

南を憶う」(月曜評論1000, 4頁, 1990年3月26日)。

川崎 信定

①『原典訳 チベットの死者の書』(筑摩書房, 1989年5月, 214頁), ③「東洋古代の生命受容——仏教思想を中心に——」(日本倫理学会論集24, 19~34頁, 日本倫理学会, 1989年10月), “Discrepancies in the Sanskrit and Tibetan Texts of Bhavya’s Madhyamaka-hṛdaya-Tarkajvāla (the IXth and Xth Chapters)” (the Proceedings of the Vth International Seminar for Tibetan Studies, Naritasan, to be published in Summer 1990), 『チベットの死者の書』の世界」(季刊仏教——浄土特集——11, 111~122頁, 1990年4月), ④「サンスクリット語の手引(付)原語表記について」(中村元編『岩波 仏教辞典』, 880~883頁, 岩波書店, 1989年12月), 「第1回ラモット学会に出席して」(東方学80, 1990年4月刊行予定), ⑦“On the Sanskrit and Tibetan Texts of Bhavya’s Madhyakama-hṛdaya-Tarkajvāla” (1e Premier É. Lamotte Symposium, Bruxelles, September 25, 1989)。

河鱒 源治

③「天京事変に関する問題点」(近代中国研究彙報12, 1~20頁, 東洋文庫, 1990年3月)。

神田 信夫

②『民族の世界史3——東北アジアの民族と歴史』(三上次男と共編, 山川出版社, 1989年9月, 550頁), 『中国史籍解題辞典』(山根幸夫と共編, 燎原書店, 1989年9月, 357頁), ③「後金国の山城・都城の研究」(明治大学人文科学研究所年報30, 103~107頁, 明治大学人文科学研究所, 1989年12月), ⑦「清初の史跡を訪ねて」(国士館大学, 1989年11月14日), ⑧「弔辞」『野尻湖クリルタイの始まり』(『人と人 山田信夫先生追悼文集』, 6~7頁, 304~305頁, 山田信夫教授追悼記念事業会, 1989年4月), 「野尻湖の大可汗」(『追想植村清二』, 129~130頁, 草風館, 1989年5月), 「寄附金の受入真剣に考えよ」(明治大学広報274, 1頁, 明治大学, 1989年6月1日), 「湖南先生の吉林旅行」(湖南10, 30~31頁, 内藤湖南先生顕彰会, 1989年12月), 「東洋史用語の解説」(『現代用語の基礎知識1990』, 1162~1168頁, 自由国民社, 1990年1月), 「羽田明先生を偲ぶ」(日仏東洋学会通信11, 3~4頁, 日仏東洋学会, 1990年3月)。

小松 久男

③「あるジャディードの軌跡」(史朋23, 1~20頁, 北海道大学東洋史談話会, 1989年11月), “The Evolution of Group Identity among Bukharan Intellectuals in 1911-1928: An Overview” (The Memoirs of the Research Department of the

Toyo Bunko 47, 115~144頁, 東洋文庫, 1990年3月), ④「1988年の歴史学界—回顧と展望: 内陸アジア」(史学雑誌98-5, 275~281頁, 1989年5月), ⑦“The Evolution of Group Identity among Bukharan Intellectuals in 1911-1928” (International Conference on Pre-Modern and Modern National Identity in Russia/USSR and Eastern Europe, 1989年4月3日, SOAS, ロンドン), 「中央アジア都市民のアイデンティティ変容—20世紀のブハラを中心に—」(重点領域研究「イスラムの都市性」B班「都市史の諸段階」研究会, 1989年12月23日, 倉敷), ⑧「ソ連中央アジアの民族関係」(月刊中東研究339, 56頁, 1990年2月, 中東調査会)。

佐伯 富

①『王安石』(中公文庫(再版), 196頁, 1989年3月), ③「宋代における牢城軍について」(劉子健博士頌寿記念宋史研究論文集, 267~292頁, 同朋舎, 1989年9月), 「中国史における山西商人」(1989年度観一名士講演記録, 1989年8月), ⑧「劉備と荊州」(世界古典文学全集月報24巻C附録, 3頁, 1989年4月), 「中国塩政史の研究(梗概)」(学術月報42-11, 7頁, 日本学術振興会, 1989年11月)。

佐竹 昭広

①『絵入 本朝二十不孝』(岩波書店, 1990年1月, 331頁), ②『瓜と龍蛇』(網野善彦・大西広共編, 福音館書店, 1989年6月, 436頁), ③「日本」(岩波講座『転換期における人間』2「自然とは」, 163~185頁, 岩波書店, 1989年9月), 「昼か夜か—『万葉集』巻二, 一二三の歌など—」(『折口学と古代学』, 113~134頁, 桜楓社, 1989年11月)。

佐藤 次高

③「マサイリー教徒の反乱—ジャバラ・1318年2月—」(東洋学報71-1・2, 115~139頁, 東洋文庫, 1989年12月), 「暦—ムスリムの生活技術と社会秩序—」(世界史への問い2・生活の技術・生産の技術, 245~270頁, 岩波書店, 1990年2月), ⑦「イスラム都市を歩く—比較研究の試み—」(静岡県社会科研究集会, 1989年10月14日), 「イスラム都市への旅—バグダード・カシュガル・ジャカルタ—」(三重県社会科研究集会, 1990年2月26日), ⑧「イスラム都市と中国都市—比較の視点から—」(中東協力センターニュース, 34~39頁, 1989年5月), 「イスラーム世界発展」(週刊朝日歴史百科『世界の歴史』31, 196~202頁, 1989年6月), 「保護と代償—イスラム税法の土台—」(週刊朝日歴史百科『世界の歴史』32, 204~205頁, 1989年6月), 「イスラーム社会の展開」(週刊朝日歴史百科『世界の歴史』36, 242~246頁, 1989年7月), 「セルジューク朝の興隆」(週刊朝日歴史百科『世界の歴史』41, 266~269頁, 1989年9月), 「街区と任侠・無頼—バグダードのアイヤール—」(週刊朝日百科『世界の歴史』44,

274～275頁, 1989年9月), 「モンゴルと十字軍の脅威」(週刊朝日百科『世界の歴史』51, 344～345頁, 1989年11月), 「都市に生きることとイスラム都市の示唆」(読売新聞夕刊, 1989年11月), 「イスラムの奴隷商人たち」(週刊朝日百科『世界の歴史』58, 1989年12月), 「エジプトの民衆を描く——歴史家マクリーズィ——」(週刊朝日百科『世界の歴史』63, 402頁, 1990年2月)。

酒井 憲二

②『歌舞伎評判記集成第二期第6, 7, 8巻』(岩波書店, 第6巻1989年7月, 552頁, 第7巻1989年11月, 570頁, 第8巻1990年3月, 630頁), ③『『各別』から『格別』へ——歌舞伎評判記におけるその交替——』(文学57—10, 61～69頁, 岩波書店, 1989年10月), 「歌舞伎評判記の『ずは』」(図書館情報大学研究報告8—1, 17～36頁, 1989年10月)。

滋賀 秀三

③「前漢文帝の刑制改革をめぐる——漢書刑法志脱文の疑い——」(東方学79, 39～46頁, 東方学会, 1990年1月), 「唐の官制における叙任と行・守——榎木正氏に答える——」(法制史研究39, 53～60頁, 法制史学会, 1990年3月), ⑤「谷井俊仁「清代外省の警察機能について——割辦案を例に——」」(法制史研究39, 334～335頁, 法制史学会, 1990年3月)。

関野 雄

②『北京歴史文化展——東京・北京友好都市提携10周年記念——』(監修・共編, 読売新聞社, 1989年5月, 92頁), ⑥「湖北省博物館編『湖北省博物館』(『中国の博物館』第二期6)」(監訳, 町田章等と共訳, 講談社, 1989年5月, 216頁), ⑧「北京歴史文化展——各時代の貴重な遺産を一堂に——」(読売新聞, 1989年5月10日夕刊), 「北京——忘れ得ぬ風物詩——歴史文化展開催に寄せて——」(読売新聞, 1989年5月11日夕刊)。

武田 幸男

①『高句麗史と東アジア』(岩波書店, 1989年6月, 440頁), ③「朝鮮半島とその歴史的展開——高麗・李朝」(『東北アジアの民族と歴史』, 358～426頁, 山川出版社, 1989年9月), 「幻の名拓“光緒二年本”の正体」(汲古15, 43～48頁, 汲古書院, 1989年6月), 「朝鮮諸国の古代国家形成」(東アジアの古代文化62, 10～25頁, 1990年1月), “Studies on the King Kwanggaito Inscription and Their Basis” (Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko No.47, 57～90頁, 東洋文庫, 1990年3月), ⑤「中野政一『鴨緑行』並に解説」(朝鮮学報131, 117～148+149～195頁, 1989年4月), ⑦「伽耶はなぜほろんだか——朝鮮諸国の古代国家形成」(東アジアの古代を考える会シンポジウム, 1989年7月15日, 東京), 「朝鮮戸

籍大帳について」(韓国・慶尚大学, 講演会, 1989年11月9日, チンジュ), 「馬韓文化研究の諸問題——魏志東夷伝における馬韓」(韓国・円光大学校馬韓・百濟文化研究所, 国際学術会議, 1989年11月11日, イリ), 「広開土王碑の諸問題」(就実女子大学, 講演会, 1989年11月19日, 岡山), 「朝鮮山城たずねある記」(備草会, 第12回講演会, 1989年11月25日, 岡山), ⑧「先学を語る——三上次男博士」(東方学79, 座談会, 1990年1月), 「高句麗の成長と朝鮮三国」(週刊朝日百科・世界の歴史21, 157頁, 1989年4月), 「三国鼎立の時代」(週刊朝日百科・世界の歴史26, 188~189頁, 1989年5月), 「最初の統一国家・新羅」(週刊朝日百科・世界の歴史31, 216頁, 1989年6月), 「新羅から高麗へ」(週刊朝日百科・世界の歴史36, 253頁, 1989年7月), 「高麗を支える両班官僚」(週刊朝日百科・世界の歴史41, 284頁, 1989年9月), 「高麗を揺がす内乱」(週刊朝日百科・世界の歴史46, 316頁, 1989年10月), 「高麗を襲うモンゴルの嵐」(週刊朝日百科・世界の歴史51, 334頁, 1989年11月), 「高麗から朝鮮へ」(週刊朝日百科・世界の歴史56, 381頁, 1989年12月), 「李氏朝鮮の建設の時代」(週刊朝日百科・世界の歴史61, 415頁, 1990年1月)。

C. A. ダニエルス

⑦「17・8世紀アジア域内貿易と生産技術移転——製糖技術を例として——」(第58回社会経済史学会全国大会, 1989年6月3日), ⑧「先住民——熟番——」(千慮一得22, 1~7頁, 1989年7月)。

竺沙 雅章

①『趙匡胤伝』(林傑斌訳, 台北, 国際文化事業, 1989年6月, 180頁), ③「中国における尼僧教団の成立と発展」(『シリーズ・女性と仏教1, 尼と尼寺』, 43~71頁, 平凡社, 1989年8月), 「宋初の政治と宗教」(『劉子健博士頌寿記念宋史研究論集』, 179~195頁, 同書刊行会, 1989年9月), 「中国における政治と宗教」(大谷大学史学論集3, 44~62頁, 大谷大学, 1989年12月), ⑦「敦煌文書の発見と研究の現状」(第22回日本古文書学会大会, 1989年9月30日, 学習院大学), ⑧「階段」(月刊健康342, 10頁, 1989年12月), 『魏書釈老志』(塚本善隆訳注, 補訂解説, 平凡社, 東洋文庫シリーズ515, 1990年2月, 338頁)。

鶴見 尚弘

①「姜鎮慶等訳『中国明清社会経済研究』」(学苑出版社・中国, 1989年10月, 280頁), ③「明代魚鱗冊の系譜」(『吉村忠典教授・菊地康明教授退官記念歴史学論集』, 35~53頁, 横浜国立大学歴史学教室, 1990年3月), 「元末・明初の魚鱗冊」(『山根幸夫教授退休記念明代史論叢』下, 665~679頁, 汲古書院, 1990年3月)。

朽尾 武

「玉造小町子壮衰書異文考(-)」(成城国文学論集20, 成城大学文学部, 1990年3月)。

鳥海 靖

①『新日本の歴史』(児玉幸多・平野邦雄・五味文彦氏と共著, 山川出版社, 1990年3月, 378頁), ②『国史大辞典』第10巻(関晃氏らと共編, 吉川弘文館, 1989年9月, 922頁), ④「第2回日中社会科学教科書交換調査会議について」(国際教育情報センター日中教育家交流報告書, 47~49頁, 国際教育情報センター, 1989年6月), ⑤「保古飛呂比——佐佐木高行日記」(「別冊歴史読本大事典シリーズ・日本歴史古記録総覧」下巻, 252~253頁, 新人物往来社, 1990年2月), ⑧「中国歴史教科書の日本関係記述に関して」(国際教育情報センター日中教育家交流報告書, 19~22頁, 国際教育情報センター, 1989年6月), 「歴史のひとこま——グリフィスの見た廃藩置県」(学図教科研究——社会114 <12-7>, 16~17頁, 学校図書(株), 1989年11月), 「歴史のひとこま——米食と日本人」(学図教科研究——社会116 <12-9>, 14~15頁, 学校図書(株), 1990年1月), 「特集・薩摩の両雄西郷と大久保——カリスマ型リーダーと実務型リーダーの間」(歴史と旅17-3, 36~41頁, 秋田書店, 1990年2月), 「議会制度百年に想う」(文化会議249, 1頁, 日本文化会議, 1990年3月)。

中嶋 敏

③「宋代の鋳業技術」(高校通信日本史・世界史154, 02~05頁, 東京書籍, 1989年6月), 「孟太后征西考」(東洋研究94, 01~23頁, 大東文化大学東洋研究所, 1990年2月)。

永田 雄三

①“Greek Rebellion of 1770 in the Morea Peninsula” (*Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko*, No.46, The Toyo Bunko, 1988, pp.85~101), 「三国文化圏の成立」(中近東文化センター研究会報告 No.10, 「イスラームとモンゴル」, 中近東文化センター, 1989年, 122~134頁), “The Role of Ayans in Regional Development During the Pre-Tanzimat Period in Turkey: A Case Study of the Karaosmanoglu Family” (*The Proceedings of the International Conference on Urbanism in Islam*, Vol.1, Tokyo, 1989, pp.165~191), ⑦「トルコ革命」(東洋文庫秋期東洋学講座, 1989年10月31日, 要旨: 東洋文庫書報21, 68~70頁, 1990年3月)。

花田 宇秋

⑥「バラズリー著『諸国征服史』⑥」(明治学院論叢450, 55~84頁, 1989年10月), 「バラズリー著『諸国征服史』(7)」(明治学院論叢458, 171~237頁, 1990

年3月), ⑧「イスラームの理想と2人のカリフ」(週刊朝日百科・世界の歴史33, C200~201, 朝日新聞社, 1989年7月), 「歴史家タバリ」(週刊朝日百科・世界の歴史38, C234~237, 朝日新聞社, 1989年8月)。

原 實

③“A Note on the Ancient Indian Oath (2), Use of the Periphrastic Future” (*Indologica Taurinensia* XIV, Prof. C. Caillat Felicitation Volume, pp. 201~214), 「家長組」(藤田宏達博士還暦記念論集, インド哲学と仏教, 京都, 1989, pp.123~146), ⑤「ウィーンのインド学」(東洋学報71-1・2, pp.01~010, 1989年12月), “Y.K.Dykstra (trans., annot., Introd.) : The Konjaku Tales, Indian Section (Tenjiku Hen), from a Medieval Japanese Collection. Part I, xiii+255pp.; Part II, 250 pp., Osaka, 1986” (Review in *Acta Orientalia* L, 1989, pp. 258~261), ⑦“Note on the Buddha’s Birth Story” (3 April, Harvard Univ.), “A Note on the Hindu Concept of Man” (10 April, Univ. of Pennsylvania and 14 April, Univ. of Texas, Austin), “The Central Conception of Indian Asceticism” (11 April, Univ. of Pennsylvania), “Transfer of Merit” (17 April, UCLA, 21 April, Univ. of Washington), “Holding of Hairs” (18 April, UCLA and 19 April, Univ. of California, Berkeley), “Recent Studies on the Pāsupata Śaivism” (24 April, Harvard Univ.) “Transfer of Merit” (18 December, Univ. of Göttingen), “Expressions for Numberless in the Mahābhārata” (1 February, Univ. of Hamburg and 12 February, Univ. of Stockholm).

古屋 昭弘

③「宣教師資料に見る明代の官話」(早稲田大学大学院文学研究科紀要35, 69~79頁, 早稲田大学大学院, 1989年12月), ⑥「黄仁宇著『万曆十五年』」(稲畑耕一郎等と共訳, 東方書店, 1989年8月, 388頁)。

本庄 比佐子

④「近年の中国における中央ソビエト区史の研究について」(近代中国研究彙報12, 31~51頁, 東洋文庫, 1990年3月)。

護 雅夫

【昭和62年度】 ⑧「貝塚茂樹博士追悼 弔辞」(東方学74, 175~176頁, 東方学会, 1987年7月), 「山田信夫君を想う」(東方学75, 222~223頁, 東方学会, 1988年1月)。

【昭和63年度】 ⑦「アナトリアにおける発掘調査について」(アナトリア発掘報告講演会, 1989年1月28日, マリオン講堂)。

【平成元年度】 ④「アナトリアにおける発掘調査の沿革概要」(大村幸弘氏と共同

執筆) (東方学78, 173~178頁, 東方学会, 1989年7月), 「突厥文字の起源に関する二研究」 (東方学79, 111~120頁, 東方学会, 1990年1月), ⑤「A=ローナ=タス『東テュルク「ルーン」文字の発展と起源とについて』」 (東洋学報71-1・2, 163~172頁, 東洋文庫, 1989年12月), 「S=G=クリャシュトゥールヌィ『古代テュルク語資料に見られる神話体系の主題』」 (東洋学報71-3・4, 212~225頁, 東洋文庫, 1990年3月), ⑦「シルクロードの成立と東西文化の交流」 (日本大学文理学部公開講座, 1989年6月24日・7月1日, 日本大学文理学部), 「ユーラシア大陸と日本——信仰的行動中心として——」 (日本大学文理学部総合科目講座, 1989年9月18日, 日本大学文理学部), 「ユーラシア大陸と日本——君主観を中心として——」 (日本大学文理学部総合科目講座, 1989年9月25日, 日本大学文理学部), 「アナトリア考古学における紀元前一千年紀の諸問題」 (アナトリア発掘報告講演会, 1990年1月27日, 中近東文化センター), ⑧「三笠宮崇仁親王殿下の『アタテュルク国際平和賞』御受賞をお慶び申し上げる」 (オリエント32-1, 1~V頁, 日本オリエント学会, 1989年9月), 「トルコで見つけた一冊の本」 (かんだ117, 14~16頁, かんだ会, 1989年12月), 「先学を語る——三上次男先生——」 (座談会 東方学79, 139~160頁, 東方学会, 1990年1月)。

矢澤 利彦

①『東西お茶交流考』 (東方書店, 1989年11月, 238頁), ③「クブレ『徐カンディダ伝』について」 (東洋学報71-1・2, 87~113頁, 1989年12月), ⑦「中国の鬼神信仰について」 (日仏セミナー『宗教とアジア社会』, 第四回「民間信仰」, 1989年10月3日, パリ)。

柳田 征司

③「助動詞「ユ」「ラユ」と「ル」「ラル」との関係」 (『奥村三雄教授退官記念国語学論叢』, 293~315頁, 桜楓社, 1989年6月), 「惟高抄物略注(二)」 (愛媛大学教育学部紀要第II部人文・社会科学22, 41~52頁, 1990年2月), ⑧「変りゆく日本語 中世語概説」 (『時代別日本文学史事典中世編』, 25~33頁, 有精堂, 1989年8月), 「諸論考の取上げた抄物の語詞 (1979年~1988年)」 (国語語彙史の研究10, 503~524頁, 1989年12月)。

山内 弘一

④「李朝の儒教教育システム」 (ソフィア38-1 (通巻149), 50~57頁, 上智大学, 1989年4月), ⑦「李朝の女大学について」 (1989年11月26日, 上智大学史学会大会)。

山崎 元一

③「インドにおける新仏教運動の現状と課題」 (西村馨, 野村徹と共著, 中央学術

研究所編『宗教間の協調と葛藤』、校正出版社、1989年5月、187～202頁）、「マハーバーラタの窮迫時法・贖罪法——シャーンティパルヴァンの記事の検討——」（東洋史研究48—1、1～19頁、東洋史研究会、1989年6月）、「古代インドのバラモン——自己主張と仏教側からの批判——」（国学院雑誌90—6、1～17頁、1989年6月）、「古代インドのバラモンと王権——法典類、実利論、仏典を史料として——」（国学院大学紀要28、1～25頁、1990年3月）、⑦「ヴァルナ体制とバラモン」（日本南アジア学会大会、1989年10月8日、京都、同志社大学）、⑧「荒松雄著『中世インドの権力と宗教』書評」（中外日報、1989年6月28日号）、「古代インドの王朝と宗教」（高校通信156、2～5頁、東京書籍、1989年9月）。

山根 幸夫

①『過ぎ来し方——中国史家として』（燎原書店、1990年3月、210頁）、②『『正徳大明会典』全3冊（解説）』（汲古書院、1989年6月、1,731頁）、『中国史籍解題辞典』（神田信夫共編、燎原書店、1989年9月、382頁）、③「清代山東市集与紳士階層——以曲阜息陔義集為中心進行考察」（瀋州大学高等教育研究1988年3・4期、1988年）、「明末農民戦争与紳士階層的意識」（『張獻忠与李自成』34～41頁、四川人民出版社、1989年6月）、「明代社会の研究——紳士族を中心として」（『三島海雲財団研究報告書』26、125～127頁、三島海雲財団、1989年11月）、「町野武馬と張作霖——日本陸軍牒報武官の一面」（社会科学討究35—2、63～96頁、早稲田大学社会科学研究所、1990年2月）、「八十年来日本の明史研究」（東京女子大学論集40—2、東京女子大学、43～60頁）、⑤『『中国史籍解題辞典』の刊行』（燎原33、6頁、燎原書店、1989年4月）、「鄭克晟著『明代政争探源』」（東洋学報71—1・2、141～148頁、東洋文庫、1989年12月）、「黄福慶著『近代中国高等教育研究——国立中山大学（1924—1937）』」（東洋学報71—1・2、148～155頁、東洋文庫、1989年12月）、「陳学文編『湖州府城鎮經濟史料類纂』」（東洋学報71—3・4、207～212頁、東洋文庫、1989年12月）、⑦「日本における八十年来明史研究の回顧と展望」（台湾大学民国以来国史研究的回顧与展望研討会、1989年8月3日、要旨：東京女子大学論集40—2）、「満州建国大学と日本」（東洋教育史学会例、1989年4月29日、市が谷私学会館）、⑧「山田君の思い出」（『人と人——山田信夫先生追悼文集』、94～95頁、記念事業会、1989年4月）、「歴史の先生たち」（『姫路中学卒業50周年記念誌』、62～64頁、姫路中学50回卒業生会、1989年5月）、「植村先生のこと」（『追想植村清二』、126～128頁、草風館、1989年5月）、「編集後記」（汲古15、100頁、汲古書院、1989年6月）、「傅衣凌先生の逝去を悼む」（明代史研究17、1～2頁、明代史研究会、1989年4月）、「星斌夫博士の逝去を悼む」（明代史研究17、7～10頁、明代史研究会、1989年4月）、「王守稼研究員の逝去を悼む」（明代史研究17、15～16頁、明代史研究会、1989年4月）、「民国以来国史研究的回顧与展望研討会に出席して」（東洋学報71—1・2、197～210頁、東洋文庫、1989年4月）、「編集後記」（汲古16、62頁、汲古書院、1990年2月）、「呉金成著、渡昌弘訳『明

代社会経済史研究』序文」(汲古書院, 1~3頁, 1990年2月), 「定年退職に当って」(東京女子大学学報43-4, 2頁, 東京女子大学, 1990年3月), 「韓国明代史論文目録(1986-87年)」(明代史研究17, 79~80頁, 1989年4月), 「1988年明代史論文目録」(明代史研究17, 77~79頁, 1989年4月)。

和田 博徳

③「明末の承天府における民変——『鄧事紀略』について——」(創価大学人文論集1, 122~156頁, 創価大学人文学会, 1989年4月), ⑦「明代における里甲制の里数とその変遷」(創価大学アジア研究所研究会, 1989年11月15日), 「明代の官俸と皂隸銀」(慶応義塾大学最終講義, 1990年1月18日), ⑧「景印文淵閣四庫全書——東洋文化の一大宝庫——」(SCL 図書館情報5, 1~2頁, 創価大学中央図書館, 1989年10月)。

渡辺 宏

③「ウイリアム・アダムズの所謂『日本の地図』に就いて」(東方学78, 96~110頁, 英文要旨1頁, 東方学会, 1989年7月), ⑧「とうほうけんぶんろく」(『国史大辞典』10, 208頁, 吉川弘文館, 1989年9月), 「マルコ・ポーロ」(週刊朝日百科・世界の歴史053 (通巻722), C328-C331, 朝日新聞社, 1989年11月), 「観戦記の前に」(季刊将棋ペン倶楽部9, 142頁, 将棋ペンクラブ, 1989年12月)。

<前年度追加>

⑧「フランスの古書店案内書」(日本古書通信52-6 (通巻695), 6~7頁, 日本古書通信社, 1987年6月), 「ロンドンの書店案内書」(日本古書通信53-1 (通巻702), 22頁, 1988年1月)。

財団法人東洋文庫研究員・研究課題一覧

(平成2年3月31日現在)

研究員名	主たる研究課題
荒 松 雄	南アジア史における民族・宗教と国家
池 田 温	中国古代・中世史, 前近代東亜文化交流史
池 端 雪 浦	フィリピン史
石 塚 晴 通	日本語の歴史的研究, 古代漢字文献学
石 橋 崇 雄	清朝八旗制・内務府・満文史科
市 古 宙 三	太平天国及び中国共産党の研究
宇都木 章	春秋時代政治史
梅 村 坦	ウイグル民族誌, 内陸アジア史
海 野 一 隆	東洋地理・地図学の研究
越 智 重 明	漢魏晋南北朝史
岡 田 英 弘	北アジア史
亀 井 孝	日本語の歴史的研究
川 崎 信 定	チベット仏教の展開
河 鱒 源 治	太平天国史の研究
神 田 信 夫	清朝興起史
菊 池 英 夫	唐宋時代の行政および法制 (特に軍制)
北 村 甫	現代チベット語諸方言の記述的研究
草 野 靖	宋代の手形紙幣と専売制
小 松 久 男	中央アジア近代史
河 野 六 郎	中期朝鮮語の研究
後 藤 明	イスラム社会と政治
後 藤 均 平	ベトナム・中国関係史及び中国古代史の研究
佐 伯 富	中国山西商人の研究
佐 竹 昭 広	中世日本文学の史的研究
佐 藤 次 高	イスラム中世社会経済史の研究
酒 井 憲 二	日本語の史的研究
志 茂 碩 敏	13・4世紀モンゴル政権の中核・中核について
斯 波 義 信	中国社会経済史
滋 賀 秀 三	中国法制史の通史的研究
清 水 宏 祐	セルジューク朝時代のイラン

研究員名	主たる研究課題
末松保和	柳成龍の伝説
鈴木立子	元朝における社会経済史
関野雄	中国考古学の研究
田中時彦	日本の政治的近代化の研究
田中正俊	中国近代社会経済史
クリスチャン A・ダニエルス	清代社会経済史, 中国技術史
武田幸男	朝鮮古代・近世史の研究
千葉幸辰	宋代の外戚
竺沙雅章	中国宗教社会史
鶴見尚弘	明・清時代社会経済史の研究
土肥義和	西域出土漢文文書の研究
枋尾武	玉造小町壯衰業の研究
鳥海靖	日本近現代史
中嶋敏	宋代史
永田雄三	トルコ史
花田宇秋	正統カリフ・ウマイヤ朝史研究
八尾師誠	20世紀初頭のイランにおける立憲革命
林望	近世印刷文化の史的研究
原實	インド古代文学の研究
福田洋一	仏教論理学研究
藤枝晃	敦煌・トルファン資料の研究
古屋昭弘	中国語の音韻史的研究
本庄比佐子	1920~30年代中国政治史
本田實信	フラグ・ウルス国政史
松濤誠	インド古代神話学
松村達潤	東北アジア民族史
松本明	中国隋唐政治制度史
三根谷徹	漢字音の研究
護雅夫	トルコ学・トルコ民族史
森岡康	李朝中期の政治及び社会史の研究
矢澤利彦	西洋人の見た中国事情
柳田征司	日本語の歴史的研究
山内弘一	李朝史, 朝鮮儒教
山口瑞鳳	チベット史, チベット語文法, チベット仏教
山崎元一	インド古代史
山根幸夫	明清社会経済史, 近代中日関係史
山本達郎	ベトナム・中国関係史の研究, 敦煌発見の籍帳類の研究
和田博徳	明清時代社会経済史の研究
渡辺宏	中近世東西交渉史の研究
渡辺紘良	宋代社会史の研究

IV 業 務 報 告

1. 総 務 報 告

i 財団法人東洋文庫理事会・評議員会の開催

理 事 会

- 第271回 開催日 平成元年6月6日(火曜日)
出席者 榎 一雄, 市古宙三, 岩崎寛彌, 北村 甫, 河野六郎
田中正俊, 林 健太郎, 護 雅夫, 山本達郎
委任状 有光次郎, 中村俊男
- 第272回 開催日 平成元年6月6日(火曜日)
出席者 榎 一雄, 市古宙三, 岩崎寛彌, 北村 甫, 河野六郎
田中正俊, 林 健太郎, 護 雅夫, 山本達郎
委任状 有光次郎, 中村俊男
- 第273回 開催日 平成元年11月7日(火曜日) 臨時持ち回り
出席者 護 雅夫, 有光次郎, 市古宙三, 岩崎寛彌, 北村 甫
河野六郎, 田中正俊, 中村俊男, 林 健太郎, 山本達郎
- 第274回 開催日 平成元年12月19日(火曜日)
出席者 有光次郎, 市古宙三, 岩崎寛彌, 北村 甫, 河野六郎
田中正俊, 林 健太郎, 山本達郎
委任状 中村俊男, 護 雅夫
- 第275回 開催日 平成2年2月20日(火曜日)
出席者 河野六郎, 有光次郎, 市古宙三, 田中正俊, 林 健太郎
委任状 岩崎寛彌, 北村 甫, 中村俊男, 護 雅夫, 山本達郎
- 第276回 開催日 平成2年2月20日(火曜日)
出席者 河野六郎, 有光次郎, 市古宙三, 田中正俊, 林 健太郎
委任状 岩崎寛彌, 北村 甫, 中村俊男, 護 雅夫, 山本達郎

評 議 員 会

- 第125回 開催日 平成元年6月6日(火曜日)
出席者 岡野 澄, 亀井 孝, 神田信夫, 関野 雄, 中嶋 敏
前田充明

- 委任状 石川忠雄，田部文一郎，中田乙一，西島安則，西原春夫
長谷川周重，日比野丈夫
- 第126回 開催日 平成元年12月19日（火曜日）
出席者 有馬朗人，岡野 澄，亀井 孝，神田信夫，関野 雄，中嶋 敏
前田充明
- 委任状 石川忠雄，田部文一郎，中田乙一，西島安則，西原春夫
長谷川周重，日比野丈夫
- 第127回 開催日 平成2年2月20日（火曜日）
出席者 有馬朗人，亀井 孝，関野 雄，中嶋 敏
委任状 石川忠雄，岡野 澄，神田信夫，田部文一郎，中田乙一
西島安則，西原春夫，長谷川周重，日比野丈夫，前田充明

ii 東洋学連絡委員会の開催

- 前期 開催日 平成元年5月23日（火曜日）
出席者 榎 一雄(委員長)，市古宙三，尾崎 康，中嶋 敏，竺沙雅章
日比野丈夫，本田實信，宮崎市定
- 議 題 1. 昭和63年度財団法人東洋文庫事業報告について
2. 平成元年度財団法人東洋文庫事業計画について
3. その他
- 後期 開催日 平成元年11月21日（火曜日）
出席者 護 雅夫理事長臨時代行（委員長代行），市古宙三，尾崎 康
竺沙雅章，中嶋 敏
- 議 題 1. 平成元年度財団法人東洋文庫事業中間報告について
2. 平成2年度財団法人東洋文庫事業計画案について
3. その他

2. 人事報告

i 役員異動

年月日	役職名	氏名	区分	備考
元. 4. 1.	評 議 員	森 巨	退 任	
"	"	有 馬 朗 人	就 任	
元. 6. 6.	監 事	奥 野 高	退 任	
"	"	播 磨 俊 雄	"	
"	"	池 原 正 道	就 任	
"	"	白 石 元 良	"	
元.11. 5.	理 事 長	榎 一 雄	逝 去	
元.11. 7.	理事長臨時代行	護 雅 夫	就 任	
元.12.19.	"	"	退 任	
"	理 事 長 代 行	河 野 六 郎	就 任	

ii 委員異動

年月日	役職名	氏名	区分	備考
元. 4. 1.	東洋学連絡委員会委員	尾 崎 康	委 嘱	
"	"	竺 沙 雅 章	"	
元.11.21.	"	宮 崎 市 定	退 任	

iii 職員異動

年月日	役職名	氏名	区分	備考
元. 4. 1.	研究員 (奨励)	吉岡 司郎	就任	
"	" (兼任)	山内 弘一	委嘱	
元. 6. 1.	"	池端 雪浦	"	
元.10. 1.	司書	桜井 徹	就職	
2. 1.21.	研究員 (兼任)	周藤 吉之	逝去	
2. 2.28.	総務部長	田中 満利	退任	
2. 3. 1.	"	東 陽太郎	就任	
2. 3.31.	研究員 (奨励)	宇野 伸浩	退任	
"	"	新免 康	"	

iv 受章

年月日	役職名	氏名	区分	備考
元.10. 1.	理事	有光 次郎	表彰	名誉都民
元.11. 6.	東洋学連絡委員会委員	宮崎 市定	顕章	文化功労者

V 役職員名簿

平成2年3月31日現在の財団法人東洋文庫の役職員は、以下のとおりである。

1. 役員

役職名	氏名	現職
理事長代行	河野六郎	日本学士院会員 東京教育大学名誉教授
理事	有光次郎	日本芸術院長 東京家政学院大学長
〃	市古宙三	お茶の水女子大学名誉教授
〃	岩崎寛彌	株式会社三菱銀行取締役 東山農事株式会社代表取締役社長
〃	北村甫	麗澤大学教授 東京外国語大学名誉教授
〃	田中正俊	財団法人東洋文庫図書部長 神田外語大学教授 東京大学名誉教授
〃	中村俊男	株式会社三菱銀行相談役
〃	林健太郎	東京大学名誉教授
〃	護雅夫	財団法人東洋文庫研究部長 日本大学教授 東京大学名誉教授
〃	山本達郎	日本学士院会員 東京大学名誉教授
監事	池原正道	日本通信建設株式会社監査役
〃	白石元良	三菱金曜会事務局長

役職名	氏名	現職
評議員	有馬朗人	東京大学長
〃	石川忠雄	慶応義塾長
〃	岡野澄	財団法人井上科学振興財団常務理事 東京工業高等専門学校名誉教授 財団法人東洋文庫附置ユネスコ東アジア文化 研究センター運営委員
〃	亀井孝	一橋大学名誉教授
〃	神田信夫	明治大学教授
〃	関野雄	文化財保護審議会専門委員 東京大学名誉教授
〃	田部文一郎	三菱商事株式会社相談役
〃	中嶋敏	東京教育大学名誉教授
〃	中田乙一	三菱地所株式会社相談役
〃	西島安則	京都大学長
〃	西原春夫	早稲田大学総長
〃	長谷川周重	住友化学工業株式会社取締役相談役
〃	日比野丈夫	大手前女子大学長 京都大学名誉教授
〃	前田充明	城西大学名誉教授 財団法人東洋文庫附置ユネスコ東アジア文化 研究センター顧問

2. 東洋学連絡委員会委員

役職名	氏名	現職
委員長代行 委員	護 雅 夫	(前掲出)
	市 古 宙 三	(")
	入 矢 義 高	花園大学客員教授 名古屋大学名誉教授
	江 上 波 夫	古代オリエント博物館長 東京大学名誉教授
	尾 崎 康	慶応義塾大学附属研究所斯道文庫教授
	佐 藤 長	仏教大学教授 京都大学名誉教授
	竺 沙 雅 章	京都大学教授
	長 尾 雅 人	日本学士院会員 京都大学名誉教授
	中 嶋 敏	(前掲出)
	日比野 丈 夫	(")
	福 井 康 順	早稲田大学名誉教授
	本 田 實 信	名古屋商科大学教授 京都大学名誉教授
	山 本 達 郎	(前掲出)

3. 名誉研究員

氏名	現職
W. T. デ ・ バリ イ	コロンビア大学教授
E. O. ライシャワー	ハーヴァード大学教授, 元駐日アメリカ大使
A. フォン ・ ガベイン	前ハンブルグ大学教授
J. ジ エ ル ネ	第7パリ大学教授 フランス国立高等研究院研究指導員
H. フ ラ ン ケ	ミュヘン大学教授
L. ペ テ ッ ク	ローマ大学教授

4. 職 員

部 名	職 名	氏 名	現 職
研究部	部 長	護 雅 夫	(前 掲 出)
	部 長 補 佐	佐 藤 次 高	東京大学助教授
	研究員 (兼 任)	荒 松 雄	津田塾大学教授
	〃	池 田 温	東京大学東洋文化研究所教授
	〃	池 端 雪 浦	東京外国語大学アジア・アフリカ 言語文化研究所教授
	〃	石 塚 晴 通	北海道大学助教授
	〃	石 橋 崇 雄	国士館大学専任講師
	〃	市 古 宙 三	(前 掲 出)
	〃	宇都木 章	青山学院大学教授
	〃	梅 村 坦	立正大学助教授
	〃	海 野 一 隆	明浄女子短期大学教授
	〃	越 智 重 明	久留米大学教授
	〃	岡 田 英 弘	東京外国語大学アジア・アフリカ 言語文化研究所教授
	〃	亀 井 孝	(前 掲 出)
	〃	川 崎 信 定	筑波大学教授
	〃	河 鱒 源 治	元愛知大学教授
	〃	神 田 信 夫	(前 掲 出)
	〃	菊 池 英 夫	中央大学教授
	〃	北 村 甫	附置ユネスコ東アジア文化研究 センター所長 麗澤大学教授
	〃	草 野 靖	熊本大学教授
	〃	小 松 久 男	東海大学助教授
	〃	河 野 六 郎	(前 掲 出)
	〃	後 藤 明	東京大学東洋文化研究所教授
	〃	後 藤 均 平	立教大学教授
	〃	佐 伯 富	京都大学名誉教授
	〃	佐 竹 昭 広	成城大学教授
	〃	酒 井 憲 二	図書館情報大学教授
	〃	斯 波 義 信	東京大学東洋文化研究所教授
	〃	滋 賀 秀 三	東京大学名誉教授
	〃	志 茂 碩 敏	国立国会図書館支部東洋文庫司書
〃	清 水 宏 祐	東京外国語大学助教授	

部 名	職 名	氏 名	現 職
研究部	〃	末 松 保 和	学習院大学名誉教授
	〃	鈴 木 立 子	愛知大学助教授
	〃	関 野 雄	(前 掲 出)
	〃	田 中 時 彦	東海大学教授
	〃	田 中 正 俊	(前 掲 出)
	〃	クリスチャン A・ダニエルズ	就実女子大学専任講師
	〃	武 田 幸 男	東京大学教授
	〃	千 葉 昶	桐朋学園校長・桐朋学園大学講師
	〃	竺 沙 雅 章	京都大学教授
	〃	鶴 見 尚 弘	横浜国立大学教授
	〃	朽 尾 武	成城大学教授
	〃	土 肥 義 和	国学院大学教授
	〃	鳥 海 靖	東京大学教授
	〃	中 嶋 敏	(前 掲 出)
	〃	永 田 雄 三	東京外国語大学アジア・アフリカ 言語文化研究所助教授
	〃	八尾師 誠	東京外国語大学専任講師
	〃	花 田 宇 秋	明治学院大学助教授
	〃	林 望	東横学園女子短期大学助教授
	〃	原 實	東京大学教授
	〃	藤 枝 晃	京都大学名誉教授
	〃	古 屋 昭 弘	早稲田大学助教授
	〃	本 田 實 信	(前 掲 出)
	〃	松 濤 誠 達	大正大学教授
	〃	松 村 潤	日本大学教授
	〃	三根谷 徹	国学院大学教授
	〃	森 岡 康	元国立国会図書館支部東洋文庫 司書
	〃	矢 澤 利 彦	埼玉大学名誉教授
	〃	柳 田 征 司	愛媛大学教授
	〃	山 内 弘 一	上智大学専任講師
	〃	山 口 瑞 鳳	元東京大学教授
〃	山 崎 元 一	国学院大学教授	
〃	山 根 幸 夫	東京女子大学教授	
〃	山 本 達 郎	(前 掲 出)	
〃	和 田 博 徳	創価大学教授	

部 名	職 名	氏 名	現 職
研究部	〃	渡 辺 宏	東洋大学アジア・アフリカ研究所 研究員 独協医科大学教授
	〃	渡 辺 紘 良	
	研究員 (専任)	松 本 明	

部 名	職 名	氏 名
図書部	部 長	田 中 正 俊
	東洋文庫長	渡 辺 兼 庸*
	主 査	小 山 勲*, 竹之内 信 子*
	副 主 査	池 田 直 人*, 志 茂 碩 敏*, 秩 父 良 子*
	事務主任	広 瀬 洋 子*
	係 員	小 林 輝 男* 西 薊 一 男, 桜 井 徹
総務部	部 長	東 陽 太 郎
	課 長	光 田 憲 雄
	係 員	金 子 祐 子, 中 沢 元 幸, 広 木 節 巳
		吉 田 男 佐 武

(※印は国立国会図書館支部東洋文庫職員)

5. 臨時職員

部 名	氏 名
研究部	石 川 重 雄, 石 川 美 恵, 片 山 章 雄, 加 藤 勝 久 現 銀 谷 史 明, 高 綱 正 子, 原 朝 子, 福 田 裕 美 子 藤 元 光 彦, 吉 田 健 翁
図書部	岩 見 隆, 遠 藤 和 子, 大 島 誠 二, 太 田 敬 子 鹿 島 幸 子, 金 沢 康 雄, 久 保 田 宏 次, 清 水 一 枝 関 喜 美 子, 関 喜 房, 高 田 幸 男, 中 善 寺 慎 新 田 二 郎, 浜 尾 彰 久, 山 崎 淑 子, 山 口 乾 ヤマンラール水野美奈子, 横 溝 美 緒, 吉 田 雅 子, 吉 原 伸 行, 吉 安 昌 夫, 渡 辺 修
総務部	鈴 木 立 子, 中 太 葉 子

財 團 法 人 東 洋 文 庫 役 員 略 年 表

年 別	理 事 長	常 務 理 事	理 事	評 議 員	監 事
大正13年 (1924年)	井 上 準之助 (大正13年11月就任)	白 鳥 庫 吉 (大正13年11月就任)	上 田 萬 年 (大正13年11月就任) 木 内 重四郎 (大正13年11月就任) (大正14年 1月逝去) 桐 島 像 一 (大正13年11月就任)	荒 木 寅三郎 (大正13年11月就任) 鎌 田 栄 吉 (大正13年11月就任) 古 在 由 直 (大正13年11月就任) 高 田 早 苗 (大正13年11月就任) 穂 積 陳 重 (大正13年11月就任) (大正15年 4月逝去)	小田切萬壽之助 (大正13年11月就任)
昭和 3年 (1928年)	井 上 準之助	白 鳥 庫 吉	上 田 萬 年 桐 島 像 一	荒 木 寅三郎 鎌 田 栄 吉 古 在 由 直 高 田 早 苗 新渡戸 稲 造 (昭和 3年 3月就任)	小田切萬壽之助
昭和 7年 (1932年)	井 上 準之助 (昭和 7年 2月逝去) 桐 島 像 一 (昭和 7年 2月就任) (昭和 7年 5月退任) 林 権 助 (昭和 7年 6月就任)	白 鳥 庫 吉	上 田 萬 年 小 倉 正 恒 (昭和10年 1月就任) 桐 島 像 一 清 水 澄 (昭和 7年12月就任)	荒 木 寅三郎 高 田 早 苗 池 田 成 彬 (昭和 9年 1月就任) 一 木 喜 徳 郎 (昭和 9年 1月就任) 小 倉 正 恒 (昭和 9年 1月就任) (昭和10年 1月転任) 鎌 田 栄 吉 (昭和 9年 2月逝去) 小 泉 信 三 (昭和 9年11月就任) 古 在 由 直 (昭和 9年 6月逝去) 幣 原 喜 重 郎 (昭和10年11月就任) 長 興 又 郎 (昭和10年 1月就任) 新渡戸 稲 造 (昭和 8年10月逝去)	小田切萬壽之助 (昭和 9年 9月逝去) 桐 島 像 一 (昭和 9年11月就任)
昭和11年 (1936年)	林 権 助 (昭和14年 6月逝去) 白 鳥 庫 吉 (昭和14年 6月就任) (昭和14年11月退任) 清 水 澄 (昭和14年11月就任)	白 鳥 庫 吉	荒 木 寅三郎 (昭和12年12月就任) 上 田 萬 年 (昭和12年10月逝去) 小 倉 正 恒 幣 原 喜 重 郎 (昭和14年12月就任)	荒 木 寅三郎 (昭和12年12月転任) 池 田 成 彬 一 木 喜 徳 郎 小 泉 信 三 幣 原 喜 重 郎 (昭和14年12月転任)	桐 島 像 一 (昭和12月12月逝去) 坂 本 正 治 (昭和12年12月就任)

年 別	理 事 長	常 務 理 事	理 事	評 議 員	監 事
昭和11年 (1936年)				長 興 又 郎 高 田 早 苗 (昭和13年12月逝去) 羽 田 亨 (昭和14年11月就任) 細 川 護 立 (昭和12年12月就任)	
昭和15年 (1940年)	清 水 澄	白 鳥 庫 吉 (昭和17年 3月逝去)	荒 木 寅 三 郎 (昭和17年 1月逝去) 小 倉 正 恒 幣 原 喜 重 郎	池 田 成 彬 一 木 喜 德 郎 小 泉 信 三 田 中 穂 積 (昭和17年 2月就任) 長 興 又 郎 (昭和16年 8月逝去) 羽 田 亨 平 賀 讓 (昭和17年 2月就任) (昭和18年 2月逝去) 細 川 護 立	坂 本 正 治
昭和19年 (1944年)	清 水 澄 (昭和22年 9月逝去) 幣 原 喜 重 郎 (昭和22年10月就任)		小 倉 正 恒 幣 原 喜 重 郎 (昭和22年10月転任) 坂 本 正 治 (昭和22年10月就任) 細 川 護 立 (昭和19年 4月就任) 和 田 清	池 田 成 彬 磯 野 長 蔵 (昭和22年 4月就任) 内 田 祥 三 (昭和19年 4月就任) 一 木 喜 德 郎 (昭和19年12月逝去) 小 泉 信 三 新 村 出 (昭和19年 4月就任) 田 中 穂 積 (昭和19年 8月逝去) 羽 田 亨 細 川 護 立 (昭和19年 4月転任)	坂 本 正 治 (昭和22年10月転任) 深 井 三 男 (昭和22年10月就任)
昭和23年 (1948年)	幣 原 喜 重 郎 (昭和26年 3月逝去) 細 川 護 立 (昭和26年 3月就任)	坂 本 正 治 (昭和24年 4月就任)	有 光 次 郎 (昭和25年 3月就任) 小 倉 正 恒 (昭和25年 3月退任) 坂 本 正 治 (昭和24年 4月転任) 徳 川 宗 敬 (昭和26年 6月就任) 細 川 護 立 (昭和26年 3月転任) 和 田 清	有 光 次 郎 (昭和24年 9月就任) (昭和25年 3月転任) 池 田 成 彬 (昭和25年10月逝去) 磯 野 長 蔵 一 万 田 尚 登 (昭和24年 9月就任) 内 田 祥 三 小 泉 信 三 潮 田 江 次 (昭和24年 9月就任)	深 井 三 男

年 別	理 事 長	専 務 理 事	理 事	評 議 員	監 事
昭和23年 (1948年)		(昭和24年 4月移行)		島 田 孝 一 (昭和24年 9月就任) 渋 沢 敬 三 (昭和24年 9月就任) 新 村 出 高 橋 龍太龍 (昭和26年 6月就任) 鳥 飼 利三郎 (昭和24年 9月就任) 南 原 繁 (昭和24年 9月就任) 羽 田 亨 俣 野 健 輔 (昭和24年 9月就任)	
昭和27年 (1952年)	細 川 護 立	坂 本 正 治 (昭和27年 2月逝去)	有 光 次 郎 小 倉 正 恒 (昭和27年11月就任) 渋 沢 敬 三 (昭和28年11月就任) 徳 川 宗 敬 羽 田 亨 (昭和28年11月就任) (昭和30年 4月逝去) 山 本 達 郎 (昭和30年 6月就任) 和 田 清	石 黒 俊 夫 (昭和27年11月就任) 磯 野 長 蔵 一 万 田 尚 登 内 田 祥 三 (昭和27年11月退任) 梅 原 末 治 (昭和30年 6月就任) 小 泉 信 三 潮 田 江 次 島 田 孝 一 新 村 出 渋 沢 敬 三 (昭和28年11月転任) 高 橋 龍太龍 鳥 飼 利三郎 南 原 繁 羽 田 亨 (昭和28年11月転任) 俣 野 健 輔 矢 内 原 忠 雄 (昭和27年11月就任) 山 本 達 郎 (昭和28年11月就任) (昭和30年 6月転任)	深 井 三 男 (昭和27年11月退任) 岡 東 浩 (昭和27年11月就任)
昭和31年 (1956年)	細 川 護 立	和 田 清 (昭和32年 6月就任)	有 光 次 郎 小 倉 正 恒 渋 沢 敬 三 徳 川 宗 敬 山 本 達 郎 和 田 清 (昭和32年 6月転任)	石 黒 俊 夫 磯 野 長 蔵 一 万 田 尚 登 (昭和32年12月退任) 岩 井 大 慧 (昭和32年12月就任) 梅 原 末 治 榎 一 雄 (昭和32年12月就任)	岡 東 浩

年 別	理 事 長	専 務 理 事	理 事	評 議 員	監 事
昭和31年 (1956年)				大 浜 信 泉 (昭和32年12月就任) 奥 井 俊 太 郎 (昭和32年12月就任) 茅 誠 司 (昭和32年12月就任) 小 泉 信 三 潮 田 江 次 (昭和32年12月退任) 島 田 孝 一 (昭和32年12月退任) 新 村 出 高 橋 龍 太 郎 鳥 飼 利 三 郎 南 原 繁 平 沢 興 (昭和32年12月就任) 俣 野 健 輔 矢 内 原 忠 雄 (昭和32年12月退任)	
昭和35年 (1960年)	細 川 護 立	和 田 清 (昭和35年12月退任) 榎 一 雄 (昭和35年12月就任)	有 光 次 郎 石 黒 俊 夫 (昭和37年12月就任) 岩 井 大 慧 (昭和35年12月就任) 小 倉 正 恒 (昭和36年12月逝去) 渋 沢 敬 三 (昭和38年10月逝去) 徳 川 宗 敬 松 本 重 治 (昭和36年12月就任) 山 本 達 郎 和 田 清 (昭和35年12月就任) (昭和38年 6月逝去)	石 黒 俊 夫 (昭和37年12月就任) 磯 野 長 蔵 岩 井 大 慧 (昭和35年12月就任) 梅 原 末 治 榎 一 雄 (昭和35年12月就任) 大 河 内 一 男 (昭和38年12月就任) 大 浜 信 泉 大 原 総 一 郎 (昭和38年12月就任) 奥 井 俊 太 郎 (昭和35年 6月退任) 奥 田 東 (昭和38年12月就任) 茅 誠 司 (昭和38年12月退任) 川 北 禎 一 (昭和38年12月就任) 小 泉 信 三 新 村 出 酒 井 杏 之 助 (昭和38年12月就任) 高 橋 龍 太 郎 高 村 象 平 (昭和35年 6月就任)	岡 東 浩

年 別	理 事 長	専 務 理 事	理 事	評 議 員	監 事
昭和35年 (1960年)				辻 直四郎 (昭和38年12月就任) 鳥 飼 利三郎 南 原 繁 平 沢 興 (昭和38年12月退任) 俣 野 健 輔 松 方 三 郎 (昭和38年12月就任)	
昭和39年 (1964年)	細 川 護 立	榎 一 雄	有 光 次 郎 石 黒 俊 夫 (昭和39年 6月逝去) 岩 井 大 憲 大 原 総一郎 (昭和39年 5月就任) 小笠原 光 雄 (昭和39年 9月就任) 川 北 禎 一 (昭和39年 5月就任) 河 野 六 郎 (昭和41年 5月就任) 酒 井 杏之助 (昭和39年 9月就任) 高 垣 寅次郎 (昭和41年 5月就任) 辻 直四郎 (昭和39年 5月就任) 徳 川 宗 敬 松 方 三 郎 (昭和39年 5月就任) 松 本 重 治 山 本 達 郎	阿 部 賢 一 (昭和41年 9月就任) 磯 野 長 蔵 (昭和42年 6月逝去) 梅 原 末 治 奥 田 東 大河内 一 男 大 浜 信 泉 (昭和41年 5月退任) 大 原 総一郎 (昭和39年 5月転任) 川 北 禎 一 (昭和39年 5月転任) 河 野 六 郎 (昭和40年10月就任) (昭和41年 5月転任) 小 泉 信 三 (昭和41年 5月逝去) 新 村 出 (昭和42年 8月逝去) 酒 井 杏之助 (昭和39年 9月転任) 高 垣 寅次郎 (昭和40年10月就任) (昭和41年 5月転任) 高 橋 龍太郎 (昭和42年12月逝去) 高 村 象 平 (昭和40年 4月退任) 辻 直四郎 (昭和39年 5月転任) 鳥 飼 利三郎 (昭和39年 9月退任) 永 沢 邦 男 (昭和40年 4月就任) 南 原 繁 (昭和39年 9月退任) 俣 野 健 輔 松 方 三 郎 (昭和39年 5月転任)	岡 東 浩

年 別	理 事 長	専 務 理 事	理 事	評 議 員	監 事
昭和43年 (1968年)	細 川 護 立 (昭和45年11月逝去)	榎 一 雄	有 光 次 郎 岩 井 大 慧 (昭和46年11月逝去) 小笠原 光 雄 大 原 総一郎 (昭和43年 7月逝去) 川 北 禎 一 河 野 六 郎 酒 井 杏之助 高 垣 寅次郎 辻 直四郎 徳 川 宗 敬 松 方 三 郎 松 本 重 治 山 本 達 郎	阿 部 賢 一 (昭和43年 8月退任) 梅 原 末 治 奥 田 東 (昭和45年 5月退任) 大 河 内 一 男 (昭和44年 5月退任) 加 藤 一 郎 (昭和44年 5月就任) 佐 藤 朔 (昭和44年 7月就任) 時 子 山 常三郎 (昭和43年 8月就任) (昭和45年10月退任) 中 山 素 平 (昭和43年12月就任) 永 沢 邦 男 (昭和44年 7月退任) 長 谷 川 周 重 (昭和43年12月就任) 前 田 敏 男 (昭和45年 5月就任) 俣 野 健 輔 村 井 資 長 (昭和45年10月就任)	岡 東 浩
昭和47年 (1972年)	辻 直四郎 (昭和49年 4月就任)	榎 一 雄	有 光 次 郎 小笠原 光 雄 川 北 禎 一 河 野 六 郎 酒 井 杏之助 高 垣 寅次郎 辻 直四郎 (昭和49年 3月退任) 徳 川 宗 敬 松 方 三 郎 (昭和48年 9月逝去) 松 本 重 治 山 本 達 郎	梅 原 末 治 岡 本 道 雄 (昭和48年12月就任) 加 藤 一 郎 (昭和48年 5月退任) 久 野 洋 (昭和48年 6月就任) 坂 本 太 郎 (昭和50年 7月就任) 佐 藤 朔 (昭和48年 6月退任) 久 松 潜 一 (昭和50年 7月就任) 中 山 素 平 長 谷 川 周 重 林 健太郎 (昭和48年 5月就任) 前 田 敏 男 (昭和48年12月退任) 俣 野 健 輔 村 井 資 長	岡 東 浩

年 別	理 事 長	専 務 理 事	理 事	評 議 員	監 事
昭和51年 (1976年)	辻 直四郎 (昭和54年 9月逝去)	榎 一 雄	有 光 次 郎 小笠原 光 雄 川 北 禎 一 河 野 六 郎 酒 井 杏之助 高 垣 寅次郎 德 川 宗 敬 松 本 重 治 山 本 達 郎	石 川 忠 雄 (昭和52年 5月就任) 梅 原 未 治 岡 本 道 雄 (昭和54年12月退任) 久 野 洋 (昭和52年 5月退任) 坂 本 太 郎 沢 田 敏 男 (昭和54年12月就任) 久 松 潜 一 (昭和51年 3月逝去) 清 水 司 (昭和53年11月就任) 中 山 素 平 長谷川 周 重 林 健太郎 (昭和52年 6月退任) 俣 野 健 輔 向 坊 隆 (昭和52年 6月就任) 村 井 資 長 (昭和53年11月退任)	岡 東 浩 (昭和52年 6月退任) 中 島 正 樹 (昭和52年 6月就任)
昭和55年 (1980年)		榎 一 雄	有 光 次 郎 市 古 宙 三 (昭和56年 6月就任) 大 槻 文 平 (昭和56年 6月就任) 小笠原 光 雄 川 北 禎 一 (昭和56年 6月逝去) 河 野 六 郎 酒 井 杏之助 (昭和55年11月逝去) 坂 本 太 郎 (昭和58年 6月就任) 高 垣 寅次郎 田 中 正 俊 (昭和56年 6月就任) 德 川 宗 敬 中 村 俊 男 (昭和56年 6月就任) 松 本 重 治 護 雅 夫 (昭和56年 6月就任) 山 本 達 郎	阿 部 隆 一 (昭和56年 6月就任) (昭和58年 1月逝去) 石 川 忠 雄 梅 原 未 治 (昭和58年12月逝去) 岡 野 澄 (昭和58年 6月就任) 亀 井 孝 (昭和56年 6月就任) 神 田 信 夫 (昭和56年 6月就任) 坂 本 太 郎 (昭和58年 6月就任) 沢 田 敏 男 清 水 司 (昭和57年11月就任) 関 野 雄 (昭和58年 6月就任) 田 部 文一郎 (昭和56年 6月就任) 中 嶋 敏 (昭和56年 6月就任) 中 田 乙 一 (昭和56年 6月就任)	高 雄 靖 (昭和56年 6月就任) (昭和58年12月逝去) 中 島 正 樹 (昭和56年 6月退任) 播 磨 俊 雄 (昭和56年 6月就任)

年 別	理 事 長	専 務 理 事	理 事	評 議 員	監 事
昭和55年 (1980年)				中山素平 西原春夫 (昭和57年11月就任) 長谷川周重 林健太郎 (昭和58年6月就任) 日比野丈夫 (昭和56年6月就任) 平野龍一 (昭和56年4月就任) 俣野健輔 (昭和56年6月退任) 向坊隆 (昭和56年4月退任) 前田充明 (昭和58年6月就任)	
昭和59年 (1984年)	榎一雄 (昭和60年6月就任)	榎一雄 (昭和60年6月転任)	有光次郎 市古宙三 岩崎寛彌 (昭和62年6月就任) 大槻文平 (昭和60年6月退任) 小笠原光雄 河野六郎 坂本太郎 (昭和62年2月逝去) 高垣寅次郎 (昭和60年6月退任) 田中正俊 徳川宗敬 (昭和59年12月退任) 中村俊男 林健太郎 (昭和59年12月就任) 松本重治 護雅夫 山本達郎	石川忠雄 岡野澄 亀井孝 神田信夫 沢田敏男 (昭和60年12月退任) 関野雄 田部文一郎 中嶋敏 中田乙一 中山素平 西島安則 (昭和60年12月就任) 西原春夫 長谷川周重 林健太郎 (昭和59年12月転任) 日比野丈夫 平野龍一 (昭和60年4月退任) 前田充明 森亘 (昭和60年4月就任)	奥野高 (昭和59年6月就任) 播磨俊雄
昭和63年 (1988年)	榎一雄 (平成元年11月逝去)		有光次郎 市古宙三 岩崎寛彌 小笠原光雄 (昭和63年1月逝去) 北村甫 (昭和63年12月就任) 河野六郎	有馬朗人 (平成元年4月就任) 石川忠雄 岡野澄 亀井孝 神田信夫 関野雄 田部文一郎	池原正道 (平成元年6月就任) 白石元良 (平成元年6月就任) 奥野高 (平成元年6月退任) 播磨俊雄 (平成元年6月退任)

年 別	理 事 長	専 務 理 事	理 事	評 議 員	監 事
昭和63年 (1988年)			田 中 正 俊 中 村 俊 男 林 健太郎 松 本 重 治 (昭和63年 6月退任) 護 雅 夫 山 本 達 郎	中 嶋 敏 中 田 乙 一 中 山 素 平 (昭和63年12月退任) 西 島 安 則 西 原 春 夫 長谷川 周 重 日比野 丈 夫 前 田 充 明 森 亘 (平成元年 4月退任)	

文部省科学研究費補助金年度別受入一覧表

年度	区 分	研 究 課 題	研究代表者	補助金額 (千円)
26	研究成果刊行費	プラーフマナとシュラ ウタスートラとの関係	辻 直四郎	400
	”	日清戦役外交史の研究	岩井 大慧	200
	”	支那経済史考証	和田 清	390
	各 個 研 究	古代中国の民族構成の 研究	”	80
				} 1,070
27	研究成果刊行費	明代建州女直史研究	園田 一亀	150
28	機 関 研 究	スタイン博士蒐集敦煌 文書のマイクロフィル ム撮影並びにその整理 研究	岩井 大慧	4,500
29	”	”	”	1,300
30	”	”	”	4,000
	研究成果刊行費	満文老檔 I	神田 信夫	310
				} 4,310
31	機 関 研 究	スタイン博士蒐集敦煌 文書のマイクロフィル ム撮影並びにその整理 研究	岩井 大慧	1,700
	研究成果刊行費	満文老檔 II	神田 信夫	240
				} 1,940
32	機 関 研 究	スタイン博士蒐集敦煌 文書のマイクロフィル ム撮影並びにその整理 研究	岩井 大慧	1,700
	総 合 研 究	スタイン将来敦煌文献 の調査研究	鈴木 俊	580
	研究成果刊行費	満文老檔 III	神田 信夫	370
				} 2,650
33	総 合 研 究	スタイン将来敦煌文献 の調査研究	鈴木 俊	500
34	機 関 研 究	中世以降における東ア ジア諸地域の貴重文献 の整理研究	岩井 大慧	4,000
	総 合 研 究	スタイン将来敦煌文献 の調査研究	鈴木 俊	800
	”	日唐法制経済文書の比 較研究—正倉院文書と 敦煌文書—	仁井田 陞	500
	研究成果刊行費	満文老檔 IV	神田 信夫	340
				} 5,640

年度	区 分	研 究 課 題	研究代表者	補助金額 (千円)
35	機 関 研 究	中世以降における東アジア諸地域の貴重文献の整理研究	岩井 大慧	4,800
	総 合 研 究	西域出土古文書・古文獻の調査研究	鈴木 俊	900
	研究成果刊行費	満文老檔 V	神田 信夫	310
				} 6,010
36	機 関 研 究 B	イスラーム諸国の社会構造の研究	榎 一雄	1,500
	” C	中世以降における東アジア諸地域の貴重文献の整理研究	岩井 大慧	600
	総 合 研 究	西域出土古文書・古文獻の調査研究	鈴木 俊	1,200
	研究成果刊行費	満文老檔 VI	神田 信夫	300
				} 3,600
37	機 関 研 究 B	イスラーム諸国の社会構造の研究	榎 一雄	1,700
	研究成果刊行費	満文老檔 VII	神田 信夫	310
				} 2,010
38	特 定 研 究	イスラーム諸国の社会構造	榎 一雄	1,700
	研究成果刊行費	日本文・中国文・朝鮮文等逐次刊行物目録	岩井 大慧	1,045
	各 個 研 究	李朝仁祖朝に於ける贖還問題と対清貿易	森岡 康	40
				} 2,785
39	特 定 研 究 (2)	イスラーム諸国の社会構造	榎 一雄	1,700
	総 合 研 究	宋代以降の中国農村社会経済関係語彙に関する研究	青山 定雄	750
	研究成果刊行費	中国地方志連合目録	岩井 大慧	850
	各 個 研 究	北日本における晩期縄文文化の研究	渡辺 兼庸	50
				} 3,350
40	機 関 研 究 (A)	地方志にもとづく中国社会の研究	田川 孝三	5,400
	特 定 研 究 (2)	イスラーム諸国の社会構造	榎 一雄	1,440
	総 合 研 究	宋代以降の中国農村社会経済関係語彙に関する研究	青山 定雄	675
	研究成果刊行費	梅原考古資料目録 (朝鮮之部)	榎 一雄	550
	”	漢籍叢書所在目録	森 鹿三	830
				} 8,895

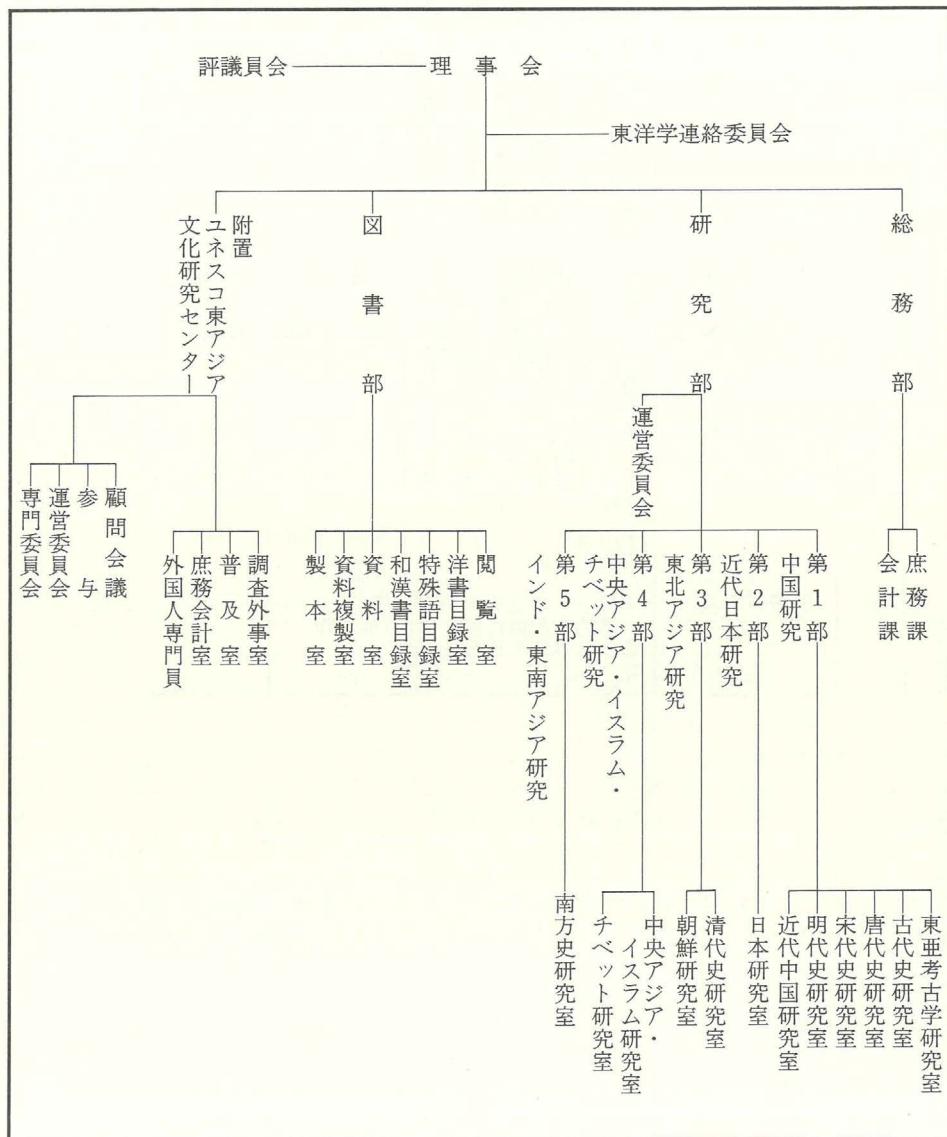
年度	区 分	研 究 課 題	研究代表者	補助金額 (千円)
41	機 関 研 究 A	地方志にもとづく中国 社会の研究	田川 孝三	4,140
	特 定 研 究 (2)	日本の近代化過程に 対する国際的評価とその 背景	榎 一雄	2,700
	総 合 研 究	金石文を主とした朝鮮 史の基礎的研究	末松 保和	1,200
	〃	パーリ語辞典編集のた めの基礎的研究	辻 直四郎	300
	研究成果刊行費	漢籍分類目録集部 (東 洋文庫の部)	〃	820
} 9,160				
42	機 関 研 究 A	地方志にもとづく中国 社会の研究	田川 孝三	3,360
	特 定 研 究 (2)	日本の近代化過程に 対する国際的評価とその 背景	榎 一雄	2,700
	総 合 研 究	金石文を主とした朝鮮 史の基礎的研究	末松 保和	1,200
	〃	パーリ語辞典編纂のた めの基礎的研究	辻 直四郎	300
} 7,560				
43	一 般 研 究 A	唐末以降1940年代にい たる中国の地主制の体 系的研究	青山 定雄	7,080
	特 定 研 究 (2)	日本の近代化過程に 対する国際的評価とその 背景	榎 一雄	2,820
} 9,900				
44	一 般 研 究 A	唐末以降1940年代にい たる中国の地主制の体 系的研究	青山 定雄	2,000
	特 定 研 究 (2)	日本の近代化過程に 対する国際的評価とその 背景	榎 一雄	2,820
	総 合 研 究 A	中国周辺諸言語に関す る中国資料の調査研究	辻 直四郎	2,000
	研究成果刊行費	唐代の服飾	原田 淑人	480
} 7,300				
45	一 般 研 究 A	唐末以降1940年代にい たる中国の地主制の体 系的研究	青山 定雄	800
	総 合 研 究 A	中国周辺諸言語に関す る中国資料の調査研究	辻 直四郎	1,600
	海外学術調査	インド・シッキム・ブ ータン・ネパールにお けるチベット文献の調 査と収集	榎 一雄	4,500
} 6,900				

年度	区 分	研 究 課 題	研究代表者	補助金額 (千円)
46	一般研究 A	日本を中心とする近代東アジア国際関係の史的研究	市古 宙三	11,500
	総合研究 A	中国周辺諸言語に関する中国資料の調査研究	辻 直四郎	1,400
	〃	李朝後半期の農村社会文化	田川 孝三	1,000
				} 13,900
47	一般研究 A	日本を中心とする近代東アジア国際関係の史的研究	市古 宙三	5,000
	総合研究 A	李朝後期の農村社会文化	田川 孝三	1,600
	海外学術調査	インド・シッキム・ブータン・ネパールにおけるチベット文献の調査と収集	榎 一雄	4,400
				} 11,000
48	特定研究 (2)	両大戦間の中国をめぐる国際情勢	市古 宙三	2,500
	海外学術調査	東洋文庫インド・シッキム・ネパール調査隊収集チベット文献の整理と目録作成	北村 甫	800
				} 3,300
49	一般研究 A	南アジアにおける文化変容の研究および資料の収集	榎 一雄	6,690
	〃 D	明代の地方行政区割、府・州・県の地理的沿革に関する研究	鶴見 尚弘	230
	特定研究 (2)	両大戦間の中国をめぐる国際情勢	市古 宙三	2,500
				} 9,420
50	一般研究 A	イスラム社会の構造に関する歴史学的研究	辻 直四郎	11,500
	〃 D	敦煌出土寺院関係古文書の基礎的研究	土肥 義和	290
	特定研究 (2)	両大戦間の中国をめぐる国際情勢	榎 一雄	2,250
				} 14,040
52	一般研究 A	中国を中心とする東アジア国際関係史資料の書誌的研究	榎 一雄	10,000
53	一般研究 A	中国を中心とする東アジア国際関係史資料の書誌的研究	榎 一雄	3,000

年度	区 分	研 究 課 題	研究代表者	補助金額 (千円)	
53	総合研究 A	仏典翻訳の対照意味論的研究	辻 直四郎	3,600	} 11,000
	"	李朝に於ける地方自治組織並びに農村社会経済語彙の研究	田川 孝三	4,400	
54	一般研究 A	中国を中心とする東アジア国際関係史資料の書誌的研究	榎 一雄	2,000	} 5,500
	総合研究 A	仏典翻訳の対照意味論的研究	辻 直四郎 (原田 覚)	3,000	
	"	李朝に於ける地方自治組織並びに農村社会経済語彙の研究	田川 孝三	500	
55	一般研究 A	南アジア史研究資料の基礎的研究	榎 一雄	9,400	} 9,700
	総合研究 A	仏典翻訳の対照意味論的研究	辻 直四郎 (原田 覚)	300	
56	一般研究 A	南アジア史研究資料の基礎的研究	榎 一雄	6,900	} 12,870
	総合研究 A	中東諸国における伝統と変革—その基礎的研究—	志茂 碩敏	4,400	
	研究成果刊行費	『解放日報』記事目録 IV—附人名索引—	近代中国研究委員会	1,570	
57	一般研究 A	ユーラシア社会史における遊牧・農耕及び通商に関する基礎的研究	榎 一雄		8,100
58	一般研究 A	ユーラシア社会史における遊牧・農耕及び通商に関する基礎的研究	榎 一雄		5,000
59	一般研究 A	ユーラシア社会史における遊牧・農耕及び通商に関する基礎的研究	榎 一雄	3,000	} 8,200
	一般研究 B	近・現代中国にかんする新聞報道の研究	本庄比佐子	5,200	
60	一般研究 B	近・現代中国にかんする新聞報道の研究	本庄比佐子		500
61	総合研究 A	ペルシア語文化圏の成立と展開に関する総合的研究	志茂 碩敏	4,600	} 14,600
	海外学術調査	スタイン蒐集敦煌文献現地総合調査	榎 一雄	10,000	

年度	区 分	研 究 課 題	研究代表者	補助金額 (千円)
62	総合研究 A	ペルシア語文化圏の成立と展開に関する総合的研究	志茂 碩敏	3,000
	一般研究 B	近・現代中国における日本関係出版物の研究	市古 宙三	3,500
	海外学術研究	昭和61年度海外学術調査「スタイン蒐集敦煌文献現地総合調査」調査総括(報告書)の作成	榎 一雄	1,400
				} 7,900
63	一般研究 B	近・現代中国における日本関係出版物の研究	市古 宙三	1,500
	一般研究 A	チベットの歴史・宗教・言語・民俗に関する基本的資料の総合的研究	榎 一雄	8,300
	奨励研究 A	チベット論理学における諸『論理学総論』体系の比較研究のための文献学的基礎研究	福田 洋一	800
	〃	中国古代社会における生産と流通	大楠 敦弘	900
				} 11,500
元	一般研究 A	チベットの歴史・宗教・言語・民俗に関する基本的資料の総合的研究	榎 一雄 (福田洋一)	2,600

財団法人東洋文庫組織図



VI 財団法人東洋文庫附置

ユネスコ東アジア文化研究センターの事業

【概要】 東アジアを中心とするアジア諸地域の文化・社会の研究に関するインフォメーション・センターとしての機能をはたし、東アジアの文化の研究の促進及びその研究成果の普及を図る。

1. 情報活動

【概要】 アジア諸地域の文化・社会に関する情報を組織的かつ継続的に収集、交換するため、また、研究機関相互間の協力を活性化させるため、国内外の諸研究機関との緊密な連絡をはかる。

1-1. 国内研究機関との連絡

【概要】 国内のアジア研究機関及び研究者の活動に関する情報を収集・整理し、公開するとともに、研究機関・研究者相互間の交流を促進する。

【事業内容】

(1) 国内研究機関の情報の収集

研究機関をリストアップし、その活動状況に関する聴き取り調査を27機関について行なった。また、研究機関が発行する要覧・紀要などの収集をした。

(2) 国内研究者名簿の作成

学会会員名簿など研究者名簿の収集、及びセンターがこれまでに蓄積した研究者データの整理をし、研究者別カード化を進めた。

1-2. 国外研究機関の情報の収集・整理

【概要】 中国をはじめとするアジア諸国の人文・社会科学関係の研究機関の情報を組織的に収集・整理し、国際的な学术交流のための基本的資料とする。

【事業内容】

(1) 国外研究情報の収集

(1)-A. 今年度調査国の研究機関、研究状況等についての資料を収集し、アジア関係研究機関の訪問調査をした。平成元年12月16日から12月30日まで坂本比奈子麗沢大学助教授をタイ国に派遣し、平成2年3月2日から3月17日まで弘末雅士調査外

事室長をインドネシアに、3月24日から4月14日まで中里成章神戸大学助教授をインドに派遣し、3月26日から4月8日まで佐藤次高東京大学教授・センター副所長を、3月26日から4月25日まで中嶋幹起東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所助教授を、3月31日から4月20日まで浜下武志東京大学東洋文化研究所教授を各々中国に派遣した。

(1)-B. 研究会の開催

Prof. B. D. Dangol (ネパール国立公文書館館長・主任研究員)

題目：ネパール国立公文書館の写本部門（6月24日）

(1)-C. 外国人研究者、各種専門家に対する便宜供与

今年度1-2-(1)-B及び1-2-(2)に記載の外国人研究者以外でセンターを訪れ、センターが情報提供等の便宜供与を行なった外国人研究者は以下のとおりである。

Mr Scott Lynn Riley	写真家
Prof Phan Huy Lê	Directeur du Centre de Coopération pour les Etudes Vietnamiennes, Hanoi, Viet Nam
河 永 輝	雅丹文化財団企画員, Seoul, Korea
朴 煥 珺	東京都立大学大学院
果 洪 昇	中国社会科学院民族研究所民族理論研究室副主任
金 淳 培	中国社会科学院民族研究所民族語言研究室秘書
陳 達 生	中国福建社会科学院研究員
Dr Hayman Gong, M.D.	Department of Radiology, The Permanente Medical Group, Inc., Hayward, Calif., USA
Mrs Chadine Flood Gong	Researcher in Thai history, Los Gatos, Calif., USA
Dr Pawadee Tonguthai	Associate Professor, Faculty of Economics, Thammasat University, Bangkok, Thailand
Dr Mattani Ruthnin	Professor, Faculty of Letters, Thammasat University, Bangkok, Thailand
Ms Supaporn Sungstri	Librarian, Library and Information Center, National Institute of Development Administration, Bangkok, Thailand
照 那 斯 圖	中国社会科学院民族研究所所長・東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所客員教授
胡 坦	中国中央民族学院教授・東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所客員教授
Dr Gudrun Bühnemann	Visiting Researcher, Faculty of Letters, Nagoya University

Ms Achara Jaiyaqam Stone	Cataloguer, UNICEF Library, New York, USA
Dr Dhiravat Na Pombejra	Lecturer, Department of History, Chulalongkorn University, Bangkok, Thailand
Dr Ali Barakat	Dean, Faculty of Arts, Mansoura University, Mansoura, Egypt
Ms Plubplung Kongchana	Assistant Professor, Department of History, Srinakharin University, Bangkok, Thailand
鄧 耀 宗	中国四川省攀枝花市（渡口市）文物管理处主任
郭 大 烈	中国雲南省社会科学院民族学研究所所长
喬 享 瑞	中国雲南省社会科学院社会学研究所助理研究員
楊 学 政	中国雲南省社会科学院宗教研究所副所長
張 開 元	中国雲南省大理白族自治州博物館館長

(1)-D. ユネスコ寄託マイクロフィルムの保存

ユネスコより寄託されたアジア諸国の歴史的資料のマイクロフィルムのうち、カンボジアの部及びネパールの部より計82リールの複製を作成した。

(2) 海外専門家の招聘

ネパール国立公文書館館長・主任研究員 B. D. ダンゴール氏を6月15日から6月27日まで、中国中央民族学院副教授 林松氏を10月20日から10月30日まで、学術交流を目的として招聘した。

1—3. 学術情報の提供

【概要】 収集した学術情報を、directory, bibliography 等として英文で刊行し、内外の研究者・研究機関に提供する。

【事業内容】

(1) 海外研究機関一覧の編集

中国、タイ、インド、マレーシア及びシンガポールに存在するアジア関係研究機関のリストの作成及び資料収集を行なった。

(2) 文献目録の編集・出版

「ベトナム書誌」の原稿の校閲を川本邦衛慶応義塾大学言語文化研究所教授に依頼して行なった。

「日本における中東・イスラーム研究文献目録」編纂の基礎となる関係諸分野の文献目録の収集・整理、及び目録記載予定文献のコンピュータ入力を行なった。

(3) 我が国におけるアジア研究の現状の調査の編集・出版

「日本における東洋学の回顧と展望 1973-1983 アジアの部」の編集と下記2点の出版を行なった。

“Japanese Studies on Asian Fine Arts 1973-1983” (Part II-3)

“Japanese Studies on Korean History (since 1910) 1973-1983” (Part II-8)

2. 研究成果の英文出版

【概要】 アジア諸地域の文化・社会に関する資料及び研究の成果を英文で出版し、東アジアをはじめとする諸地域の関係研究者並びに研究機関に周知する。

【事業内要】

(1) 機関誌「東アジア文化研究」の出版

“East Asian Cultural Studies,” Vol. XXVIII, Nos. 1-4合併号の編集・出版を行なった。さらに5月13日に編集準備委員会を、11月24日及び2月24日に編集委員会を開催して今後の出版計画について検討した。

(2) 「ラーマ一世年代記 第2巻 註釈篇」の編集・出版

“The Dynastic Chronicles, Bangkok Era, the First Reign,” Vol. II, Annotations and Commentary, Appendixes, Bibliography, Index を出版した。

(3) 「アジアの歴史的都市」の編集

第2巻「平城京」の英文校閲を行なった。

(4) 「アジア重要文献覆刻叢書」の編集・出版

“The Hindu Deities Illustrated according to the Pratiṣṭhālakṣaṇasārasamuccaya”を出版した。さらに8月16日に専門委員会を開催し、今後の出版計画について検討した。

また、5月16日から5月25日まで吹田隆道仏教大学講師をネパールに、7月2日から7月13日まで立川武蔵名古屋大学教授、横田憲治氏(写真家)、服部しのぶ氏をインドに、9月8日から9月23日まで北村甫所長をインド、台湾に派遣し、資料収集及び資料撮影を行なった。

(5) 「タイ国舞台芸術史」の編集

「タイ国舞台芸術史」の編集を進めた。

3. 調査研究及び普及活動

【概要】 国内の他の研究機関の調査研究・普及その他の活動を補足し、センターを事務局とすることが効果的であると認められる事業を企画、運営する。

3-1. 各国語文献講読会

「第29回語学講習会」

「アラビア語講習会：初級から中級へ——イスラーム文化の理解のために」を開催した。

期 間：平成元年7月20日(木)～8月30日(水)
午前9時30分～12時30分(日・月曜日を除く)

会 場：東洋文庫会議室

講 師：藤田 進 東京外国語大学助教授
新妻 仁一 亜細亜大学講師
高野 晶弘 東京外国語大学講師
アブドゥラティフ・ハッターブ 東京外国語大学講師

修了者：29名

3-2. 一般普及活動

センターの活動についての問い合わせに応じ、また出版物の寄贈交換を行なった。さらに「ニューズレター」第1号を編集・刊行した。

また在庫切れとなった出版物のうち寄贈交換の要望の多い“Kojiki in the Life of Japan,” “Meiji Japan through Contemporary Sources,” Vol. I 及び Vol. II, 「日本における東洋学の回顧と展望」のうち“Anthropology and Ethnology” (Part II-2), “Inner Asian History” (II-16), “Contemporary Southeast Asia” (II-20), “Indian Philosophy and Literature” (II-21), “West Asian and North African History (pre-Ottoman period), (Ottoman period)” (II-26, 27), 及び“Modern and Contemporary West Asian and North African History” (II-28) の増刷を行なった。

4. 業 務 報 告

A. 運営委員会・顧問会議・運営小委員会

運営委員会

- 前 期 開 催 日 平成元年 5 月 23 日 (火曜日) 午後 1 時 30 分～ 3 時
場 所 東洋文庫会議室
出席委員 2 名 委任状 16 名
報 告 1. 人事について
運営委員の委嘱について
2. 昭和 63 年度事業報告及び決算報告について
3. その他
議 題 1. 平成元年度事業計画案及び収支予算案について
2. 運営委員及び顧問の改選について
- 後 期 開 催 日 平成元年 11 月 16 日 (木曜日) 午後 1 時 30 分～ 2 時 30 分
場 所 東洋文庫会議室
出席委員 3 名 委任状 15 名
報 告 1. 人事について
顧問の委嘱について
2. 平成元年度事業中間報告及び収支状況報告について
議 題 1. 平成 2 年度事業計画案及び収支予算案について

顧問会議

- 開 催 日 平成元年 5 月 23 日 (火曜日) 午後 1 時 30 分～ 3 時
場 所 東洋文庫会議室
出席委員 1 名 委任状 2 名
報 告 1. 人事について
運営委員の委嘱について
2. 昭和 63 年度事業報告及び決算報告について
3. その他
議 題 1. 平成元年度事業計画案及び収支予算案について
2. 運営委員及び顧問の改選について

運営小委員会

- 開 催 日 平成元年 5 月 13 日 (土曜日) 午後 1 時～ 3 時
場 所 東洋文庫会議室
議 題 平成元年度事業計画

B. 役員異動

年月日	役職名	氏名	区分	備考
元年 4. 1	運営委員	高木 昭 作	就任	東京大学史料編纂所所長
"	"	谷 泰	"	京都大学人文科学研究所所長
"	"	山口 昌 男	"	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所所長
"	"	西村 元 彦	"	文部省大臣官房審議官
4.13	"	佐藤 次 郎	退任	"
4.14	"	長谷川 善 一	就任	"
8. 9	顧問	佐治 敬 三	退任	日本ユネスコ国内委員会会長
8.10	"	天城 勲	就任	"
10.31	運営委員	福井 直 俊	退任	ユネスコ・アジア文化センター理事長
11. 1	"	犬丸 直	就任	"
2. 3.31	"	石井 米 雄	退任	京都大学 東南アジア研究センター所長
"	"	加藤 榮 一	"	東京大学社会科学研究所所長
"	"	斯波 義 信	"	東京大学東洋文化研究所所長

C. 職員異動

年月日	役職名	氏名	区分	備考
2年 3.31	副 所 長	佐藤 次 高	退任	
"	調査外事室長	弘 末 雅 士	退職	

D. 受 章

年月日	役職名	氏名	区分	備考
元年11. 3	参 与	宮崎 市 定	選任	文化功労者

E. 会計報告

平成元年度ユネスコ東アジア文化研究センター収支決算書

(平成2年3月31日現在)

支 出 の 部		収 入 の 部	
科 目	金額 (千円)	科 目	金額 (千円)
事 業 費	30,227	国 庫 補 助 金	80,019
情 報 活 動 費	13,248	財 産 収 入	7
国内研究機関との 連 絡 費	1,122	雑 収 入	2,154
国外研究機関の情報 の収集整理費	7,132	東 京 倶 楽 部 補 助 金	3,003
学術情報の提供費	4,994		
研究成果の英文出版費	13,297		
調 査 研 究 及 び 普 及 活 動 費	3,682		
経 常 費	54,956		
人 件 費	51,690		
事 務 費	3,266		
計	85,183	計	85,183

5. 役職員名簿

平成2年3月31日現在のユネスコ東アジア文化研究センターの役職員は以下のとおりである。

- A. 所長 北村 甫
 B. 副所長 佐藤 次高

C. 運営委員

氏名	現職
石井 米雄	京都大学東南アジア研究センター所長
犬丸 直	ユネスコ・アジア文化センター理事長
梅棹 忠夫	国立民族学博物館館長
尾高 邦雄	日本学士院会員・東京大学名誉教授
岡野 澄	財団法人井上科学振興財団常務理事・財団法人東洋文庫評議員
加藤 榮一	東京大学社会科学研究所所長
河野 靖	上智大学アジア文化研究所客員研究員
佐々木 高明	国立民族学博物館教授
斯波 義信	東京大学東洋文化研究所所長
高木 昭作	東京大学史料編纂所所長
高田 修	東京国立文化財研究所名誉研究員
谷 泰	京都大学人文科学研究所所長
中根 千枝	東京大学名誉教授・財団法人民族学振興会理事長
中村 元	日本学士院会員・東方学院院长・東京大学名誉教授
西村 元彦	文部省大臣官房審議官
野村 忠清	国際交流基金専務理事
長谷川 善一	文部省大臣官房審議官
服部 四郎	日本学士院会員・東京大学名誉教授
宗像 善俊	アジア経済研究所所長
山口 昌男	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所所長
山本 達郎	日本学士院会員・東京大学名誉教授・財団法人東洋文庫理事

D. 顧問

氏名	現職
天城 勲	日本ユネスコ国内委員会会長
鹿取 泰衛	国際交流基金理事長
川村 恒明	文部省学術国際局局长
前田 充明	財団法人文教協会会長・城西大学名誉学長・財団法人東洋文庫評議員

E. 参与

氏名	現職
青山 秀夫	日本学士院会員・京都大学名誉教授
織田 武雄	京都大学名誉教授
田村 實造	京都大学名誉教授
長尾 雅人	日本学士院会員・京都大学名誉教授
丸山 真男	日本学士院会員・東京大学名誉教授
宮崎 市定	京都大学名誉教授

F. 専門員

John Wisnom

G. 職員

職名	氏名
調査外事室長	弘 末 雅 士
普及室長	外 池 明 江
庶務会計室長	飯 田 隆 子
研究員	本 庄 比 佐 子 福 田 洋 一
参事	設 楽 靖 子 坂 本 葉 子 小 林 和 弘

H. 臨時職員

平成元年4月1日から平成2年3月31日に至る間に臨時職員として在籍した者は、以下のとおりである。

石丸由美，岩崎葉子，大河原知樹，粕谷 元，片山章雄，黒岩 高，後藤敦子，後藤裕加子，近藤信彰，斎藤愛美，斉藤美津子，佐々木あや乃，佐々波智子，佐野佳子，ウィリアム・シャング，鹿間朝子，鳴尾 稔，島谷泰子，清水和裕，清水敏江，高松洋一，藤 美佐子，徳増克己，等々力美萌，中津 覚，西尾寛治，藤縄智子，古瀬珠水，松尾信之，松尾有里子，松長 昭，ヤマンラール・水野美奈子，山口昭彦，山田ゆかり，渡辺正晃



財団
法人 東洋文庫年報 平成元年度

平成2年11月28日 発行

発行者 東京都文京区本駒込2丁目28番21号
財団法人 東洋文庫
北村 甫

印刷者 東京都中央区湊2丁目8番7号
株式会社 デイグ

発行所 東京都文京区本駒込2丁目28番21号
財団法人 東洋文庫

